

Ⅱ 調査結果の概要

Ⅱ 調査結果の概要

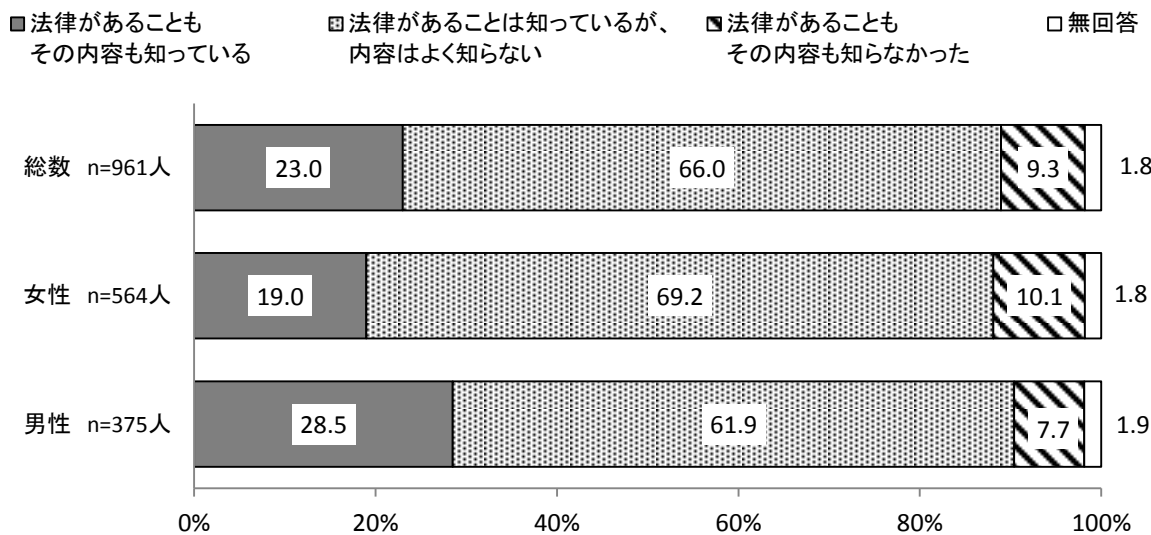
1 配偶者暴力防止法についての認知

(1) 配偶者暴力防止法の認知度

「配偶者暴力防止法」について知っているか聞いたところ、全体で「法律があることも、その内容も知っている」という人は 23.0%、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」という人が 66.0%であり、「法律を知っている」という人は9割近くを占めている。(図 1-1-1)

問1 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（配偶者暴力防止法）」を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)
 (この法律は、配偶者からの暴力(DV:ドメスティック・バイオレンス)に関する相談などの体制を整備することにより、配偶者からの暴力を防止し、被害者の保護を図るものです。)

図 1-1-1 配偶者暴力防止法の認知度



*総数には性別について無回答の人も含む。

性・年齢階級別にみると、「法律があることも、その内容も知っている」は、男女とも年齢階級が高くなるほど多くなる傾向にある。(図 1-1-2、図 1-1-3)

図 1-1-2 配偶者暴力防止法の認知度(性・年齢階級別)【女性】

【女性】

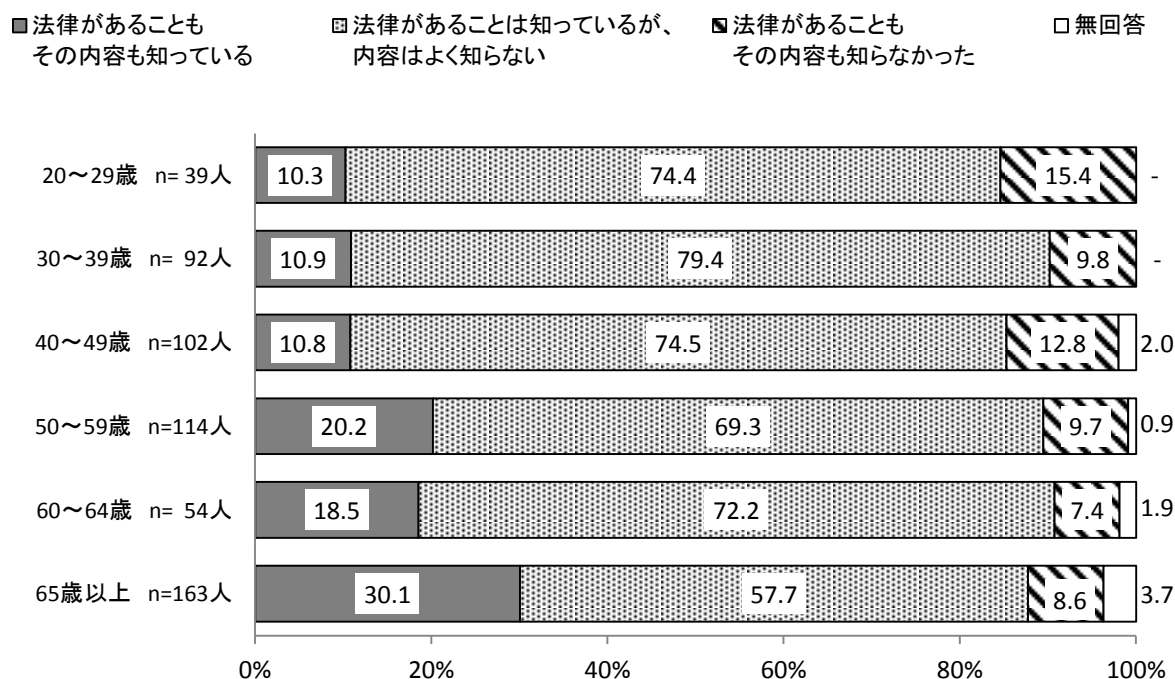
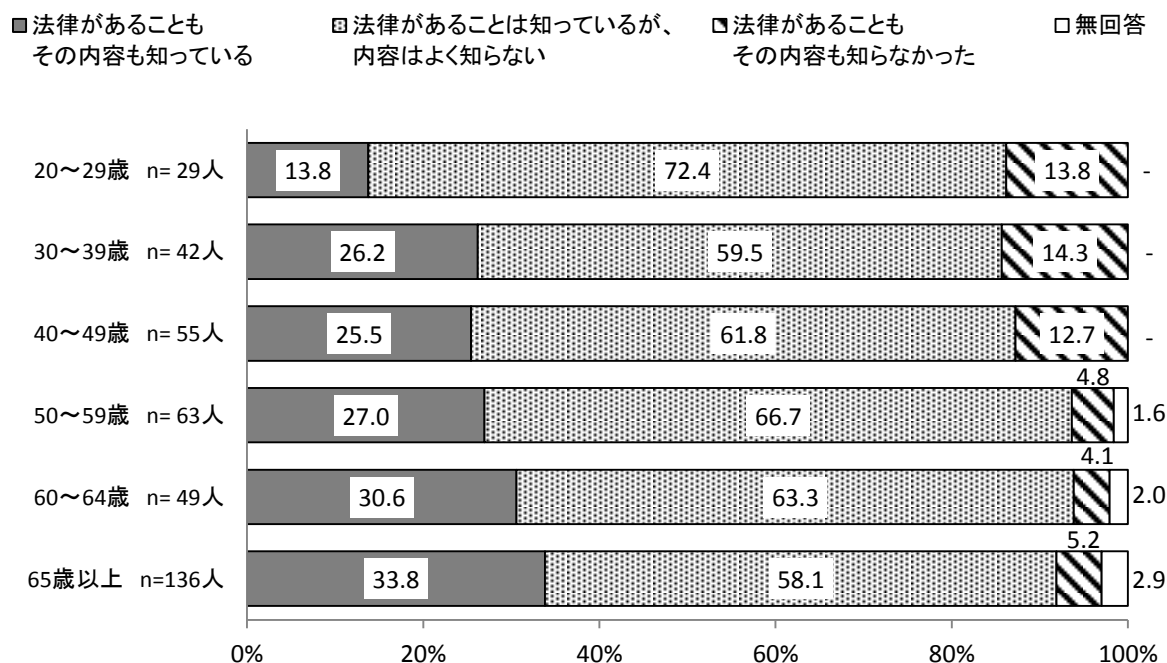


図 1-1-3 配偶者暴力防止法の認知度(性・年齢階級別)【男性】

【男性】



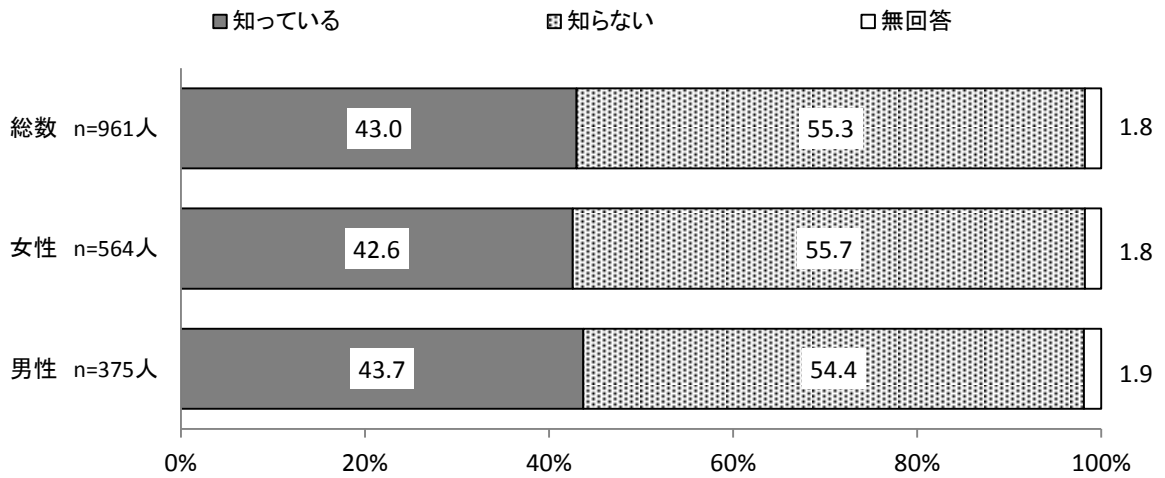
*年齢について無回答の人がいるためnの合計は男性合計(375人)と一致しない。

(2) 配偶者からの暴力の相談窓口の周知度

配偶者からの暴力について相談できる窓口を「知っている」は全体で 43.0%で、「知らない」は 55.3%となっている。(図 1-2-1)

問2 あなたは、配偶者からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図 1-2-1 相談窓口の周知度



*総数には性別について無回答の人も含む。

性・年齢階級別にみると、配偶者からの暴力について相談できる窓口を「知っている」と答えた人は、女性の30～39歳で53.3%と高く、男性の20～29歳で24.1%と低くなっている。(図1-2-2、図1-2-3)

図1-2-2 相談窓口の周知度(性・年齢階級別)【女性】

【女性】

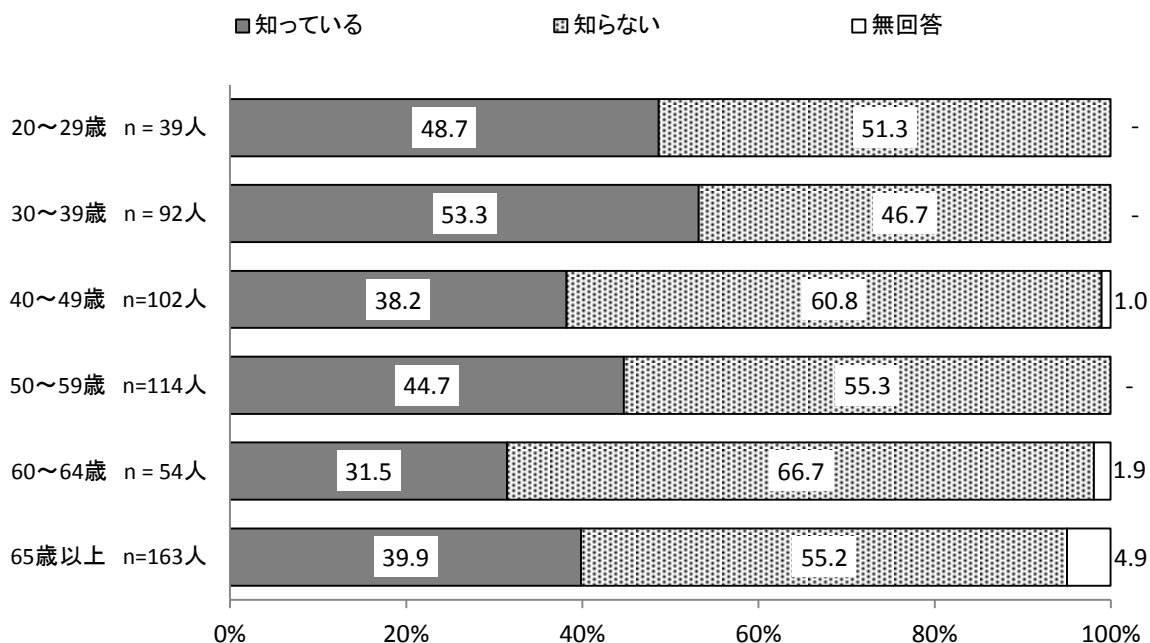
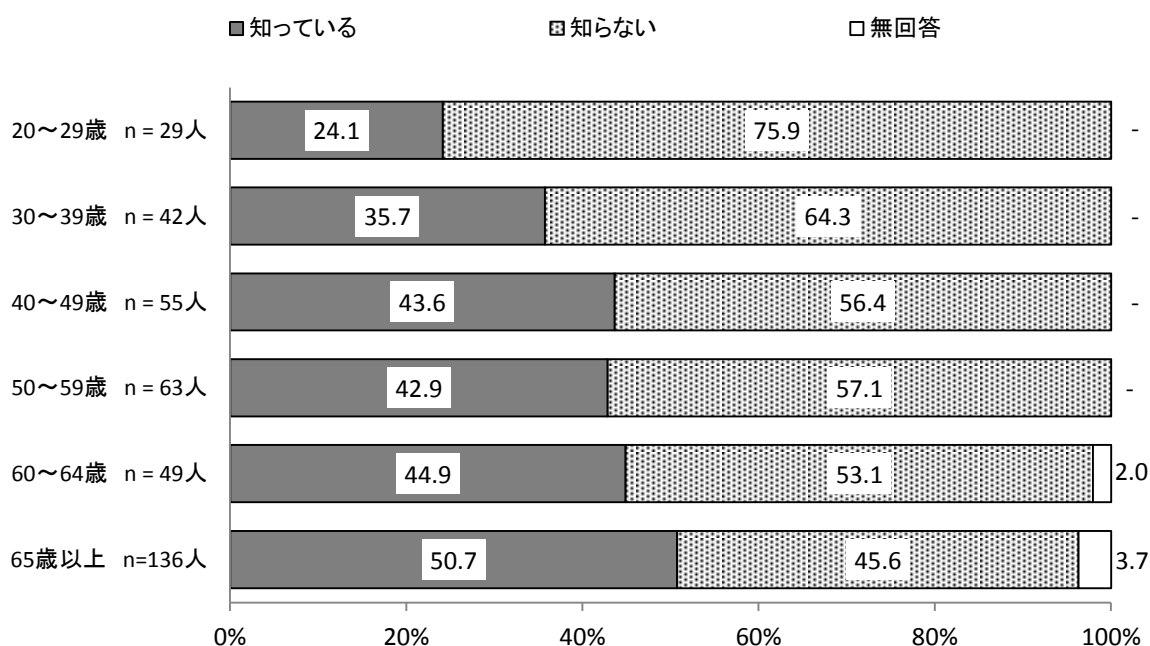


図1-2-3 相談窓口の周知度(性・年齢階級別)【男性】

【男性】



*年齢について無回答の人がいるためnの合計は男性合計(375人)と一致しない。

2 夫婦間での行為についての暴力としての認識

15 項目の行為をあげて、それが夫婦間で行われた場合に「暴力」にあたると思うかの意識を聞いた。この調査における「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれている。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、“身体を傷つける可能性のある物でなぐる” (96.5%) と “刃物などを突きつけて、おどす” (95.5%) で、9割以上の人々が暴力にあたることを認識している。

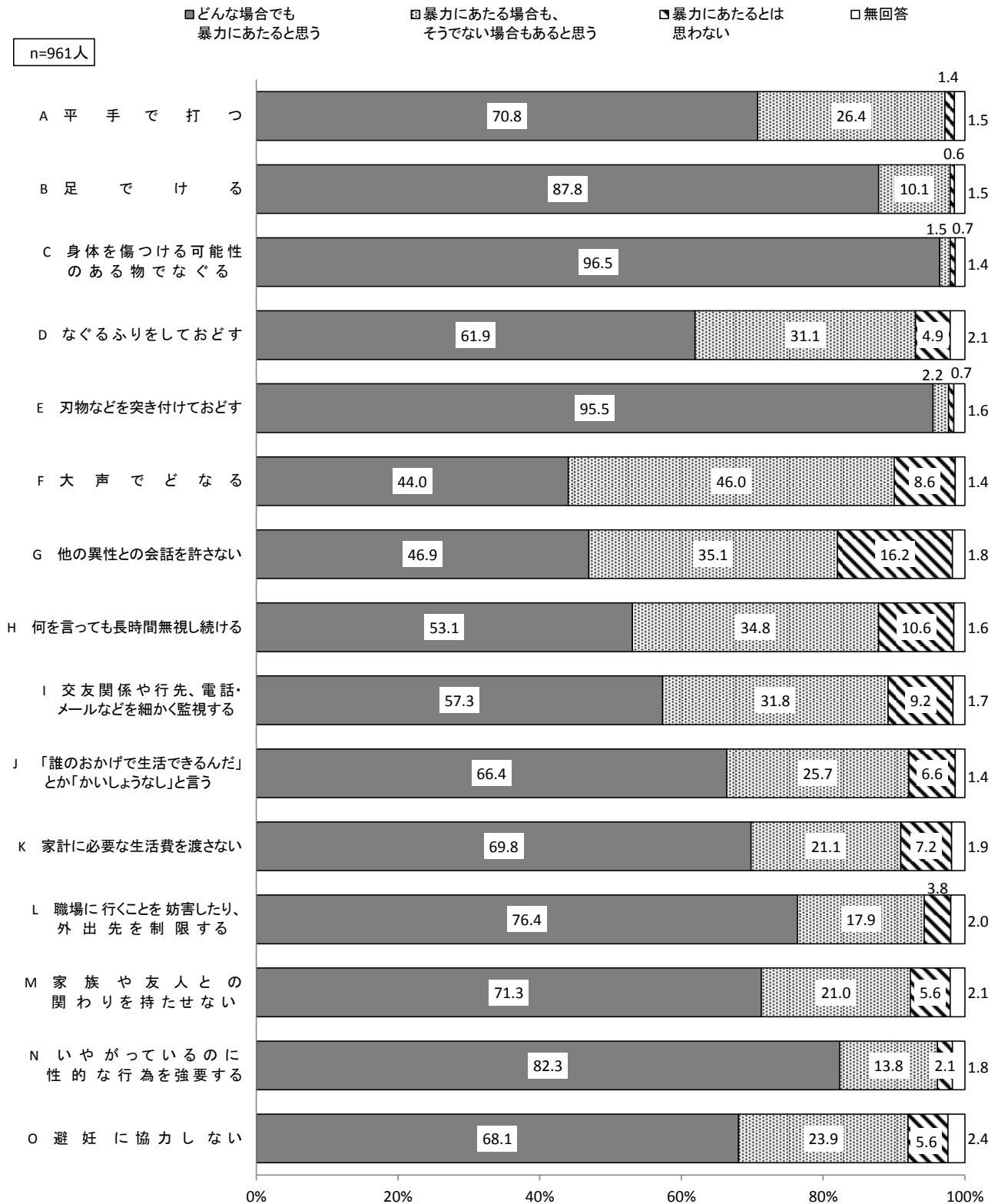
また、“足でける” (87.8%)、“いやがっているのに性的な行為を強要する” (82.3%) は8割以上の人々が「暴力にあたると思う」と考えている。

一方、「暴力にあたるとは思わない」は、“他の異性との会話を許さない” (16.2%)、“何を言っても長期間無視し続ける” (10.6%)、が1割を超えている。(図 2-1-1)

問3 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。A～Oのそれぞれについて、「1」から「3」のうちあなたの考えに近い番号に○をつけてください。なお、ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。

(○はそれぞれ1つずつ)

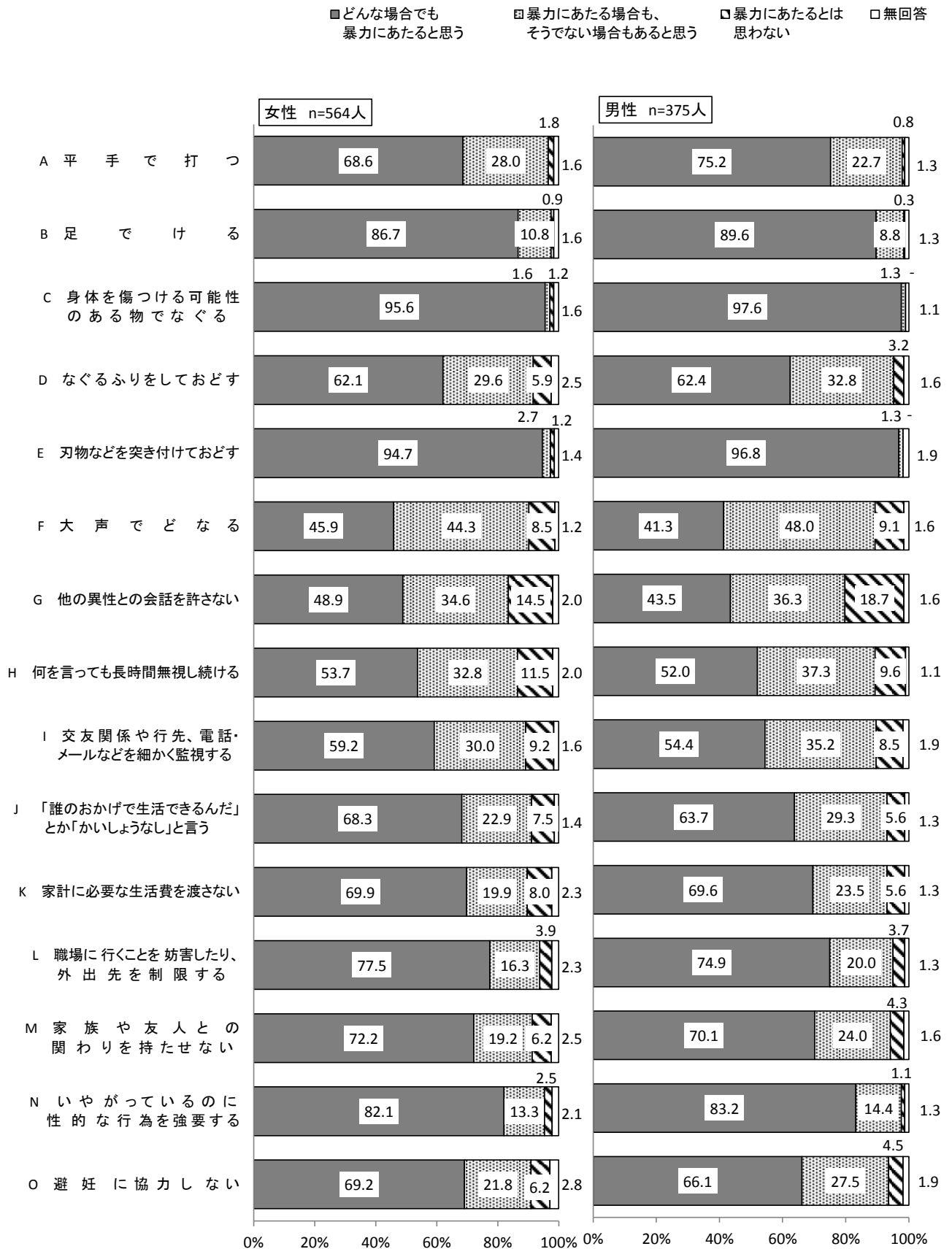
図 2-1-1 夫婦間での行為についての暴力としての認識



*総数には性別について無回答の人も含む。

男女別にみると、『暴力にあたる』と認識する行為と、『暴力にあたらぬ』と認識する行為に大きな差はみられない。(図 2-1-2)

図 2-1-2 夫婦間での行為についての暴力としての認識(男女別)



3 配偶者からの被害経験

(1) これまでの被害経験の有無

これまでに結婚したことのある人（777人）に、^{【注】}“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”の4つの行為をあげ、それぞれの行為について、配偶者から被害を受けたことがあるかを聞いた。

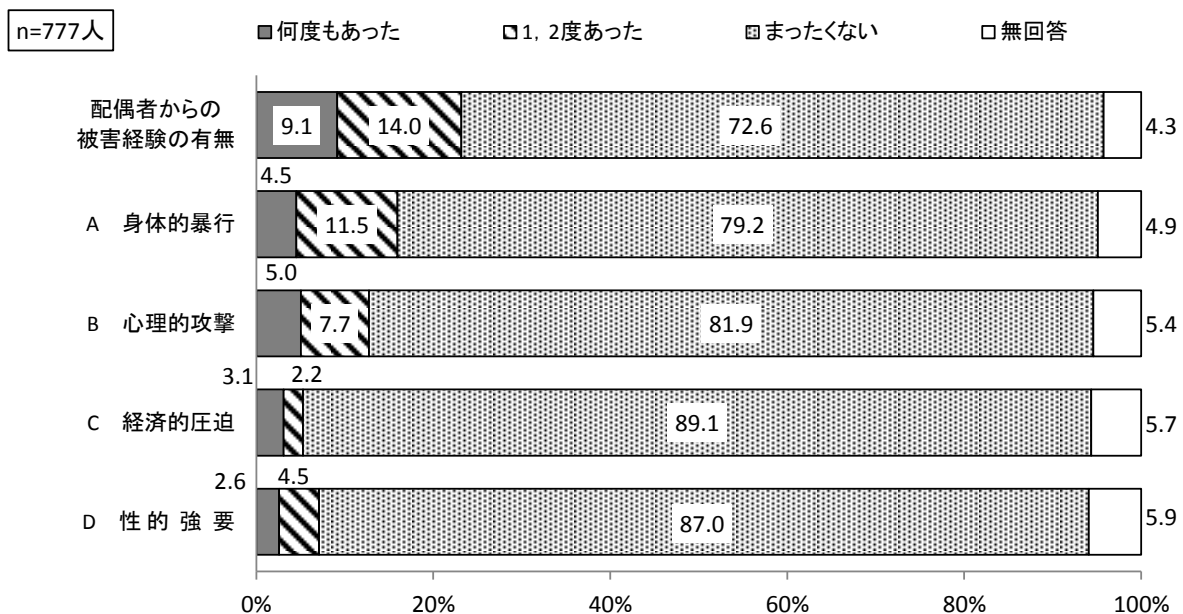
“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”のいずれかについて配偶者から被害を受けたことがある人をまとめると、『あった』が23.1%となっている（「何度もあった」9.1%と「1, 2度あった」14.0%の計）。

それぞれの行為について、被害経験が『あった』割合をみると、“身体的暴行”が16.0%、“心理的攻撃”が12.7%、“経済的圧迫”が5.3%、“性的強要”が7.1%となっている。（図3-1-1）

問5 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。「①これまで」のA～Dのそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。また、「①これまで」で「2. 1, 2度あった」、「3. 何どもあった」と回答した方は、「②この1年間」についてもお答えください。（○はそれぞれ1つずつ）

なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

図3-1-1 配偶者からの被害経験



*総数には性別について無回答の人も含む。

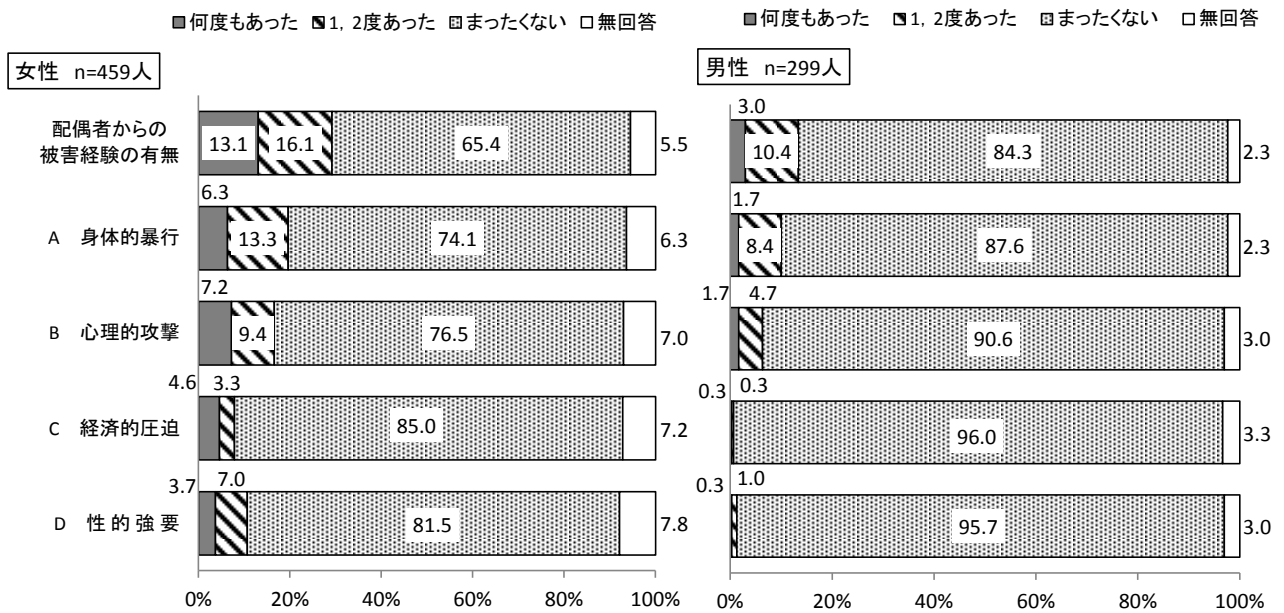
【注】

- A 身体的暴行：例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行。
- B 心理的攻撃：例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫。
- C 経済的圧迫：例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど。
- D 性的強要：例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど。

配偶者からの被害経験を男女別にみると、被害経験が『あった』（「何度もあった」「1、2度あった」の計）は女性が29.2%、男性が13.4%となっている。

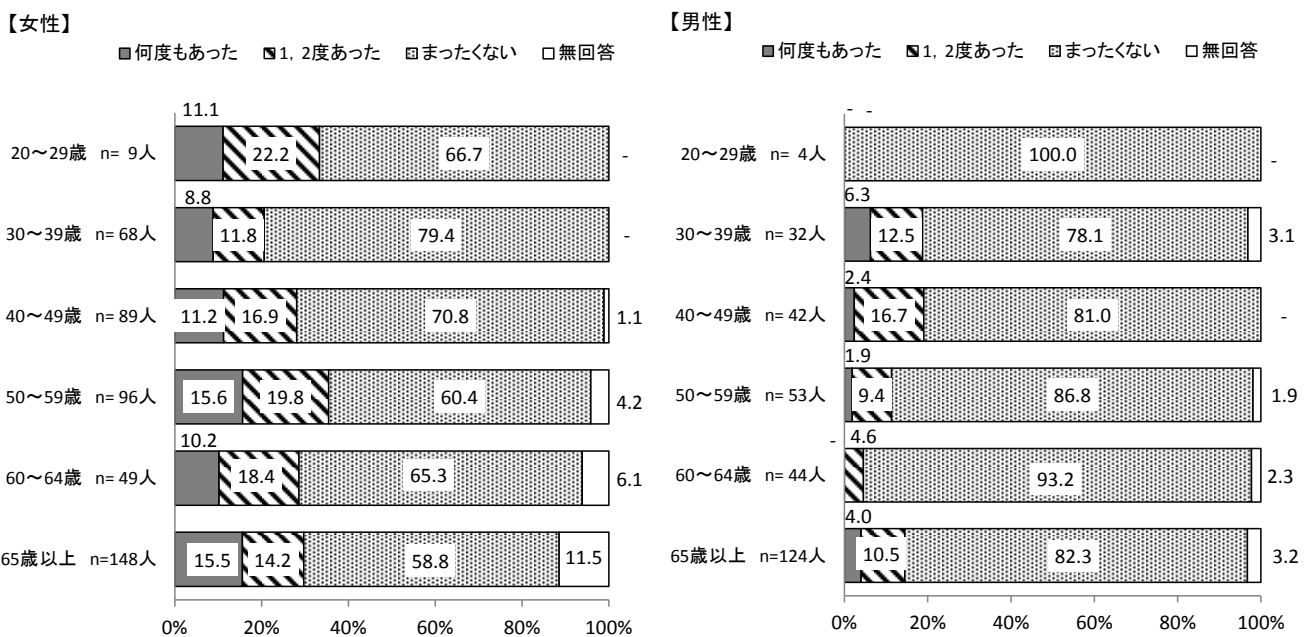
それぞれの行為について、被害経験が『あった』は、“身体的暴行”では女性が19.6%、男性が10.1%、“心理的攻撃”では女性が16.6%、男性が6.4%、“経済的圧迫”では女性が7.9%、男性が0.6%、“性的強要”では女性が10.7%、男性が1.3%となっている。いずれの行為も、女性の方が被害経験者の割合が高くなっている。（図3-1-2）

図3-1-2 配偶者からの被害経験(男女別)



さらに性・年齢階級別に配偶者からの被害経験をみると、女性の20代と50代は被害経験が3割を超えている。（図3-1-3）

図3-1-3 配偶者からの被害経験(性・年齢階級別)



配偶者からこれまでに被害を受けたことがある人（180人）について、配偶者から受けた“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”の被害をみると、重複した被害を受けている人は50.0%となっている。男女別にみると、女性が54.5%、男性が32.5%となっている。（表3-1-1）

表3-1-1 配偶者からの被害の重複

| (配偶者からこれまでに被害を受けたことがある人) | | (%) | | |
|--------------------------|------------------------|------|------|------|
| | | 総数 | 女 | 男 |
| | (n) | 180人 | 134人 | 40人 |
| 重複あり | | 50.0 | 54.5 | 32.5 |
| | 身体的暴行と心理的攻撃 | 14.4 | 11.9 | 22.5 |
| | 身体的暴行と経済的圧迫 | 3.9 | 3.7 | 2.5 |
| | 身体的暴行と性的強要 | 5.0 | 6.7 | - |
| | 心理的攻撃と経済的圧迫 | 2.2 | 3.0 | - |
| | 心理的攻撃と性的強要 | 2.2 | 2.2 | 2.5 |
| | 経済的圧迫と性的強要 | 1.7 | 2.2 | - |
| | 身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫 | 2.8 | 3.7 | - |
| | 身体的暴行・心理的攻撃・性的強要 | 7.8 | 9.0 | 5.0 |
| | 身体的暴行・経済的圧迫・性的強要 | 0.6 | 0.8 | - |
| | 心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要 | 2.8 | 3.0 | - |
| | 身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要 | 6.7 | 8.2 | - |
| 重複なし | | 50.0 | 45.5 | 67.5 |
| | 身体的暴行のみ | 27.8 | 23.1 | 45.0 |
| | 心理的攻撃のみ | 16.1 | 15.7 | 17.5 |
| | 経済的圧迫のみ | 2.2 | 2.2 | 2.5 |
| | 性的強要のみ | 3.9 | 4.5 | 2.5 |

*総数には性別について無回答の人も含む。

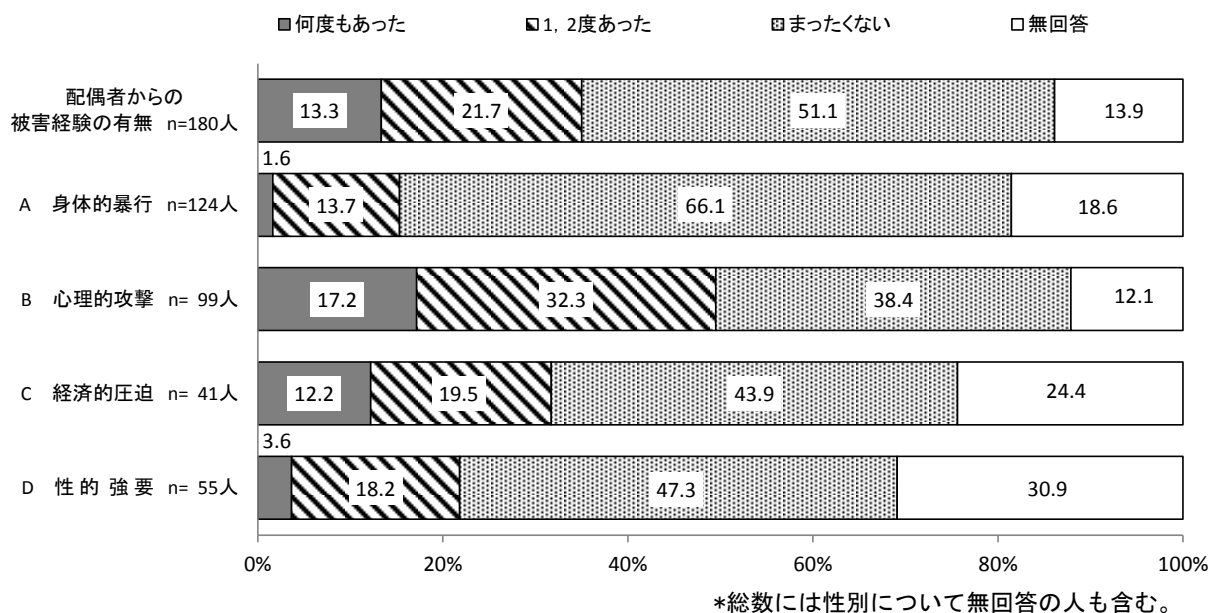
(2) 過去1年以内の配偶者からの被害経験

配偶者からこれまでに被害を受けたことがある人に、この1年間にしぼって^[注]“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”の4つの行為をあげ、それぞれの行為について被害状況を聞いた。

これまでに“身体的暴行”、“心理的攻撃”、“経済的圧迫”、“性的強要”のいずれかについて配偶者から被害を受けたことがある人(180人)に、この1年間に被害を受けたことがある人をまとめると、『あった』(「何度もあった」「1, 2度あった」の計)が35.0%となっている。

「この1年間にあった」という人を行為別にみると、“身体的暴行”を受けたことがある人(124人)は15.3%、“心理的攻撃”を受けたことがある人(99人)は49.5%、“経済的圧迫”を受けたことがある人(41人)は31.7%、“性的強要”を受けたことがある人(55人)は21.8%となっている。(図3-2-1)

図3-2-1 配偶者からの被害経験 —この1年間—

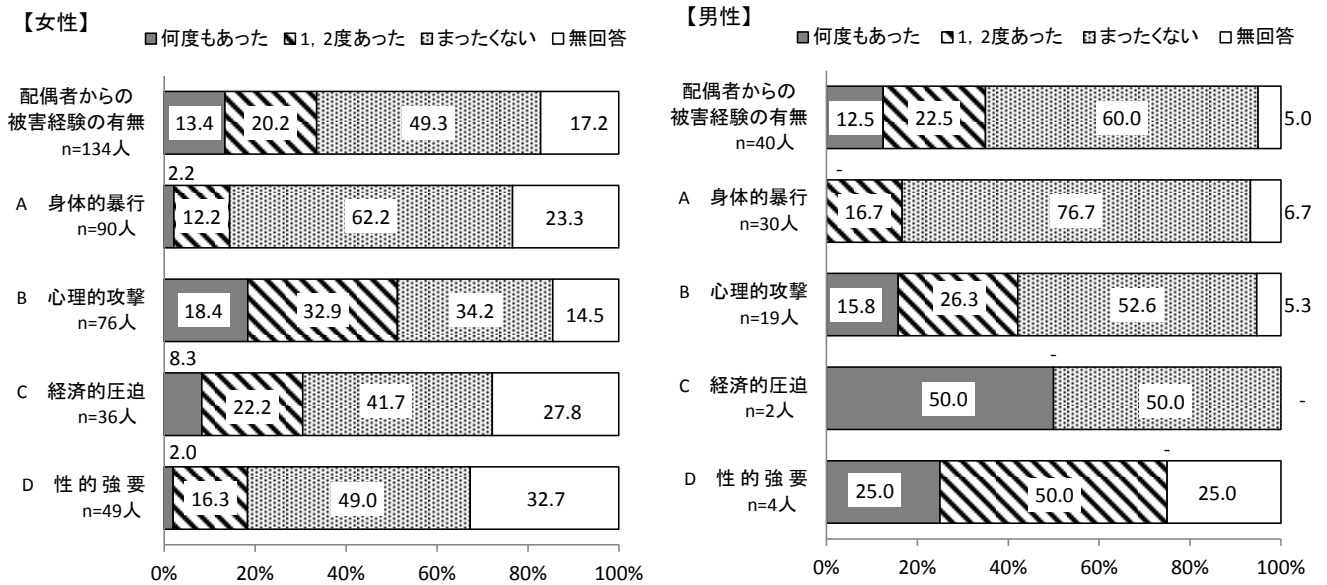


【注】

- A 身体的暴行：例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行。
- B 心理的攻撃：例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫。
- C 経済的圧迫：例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど。
- D 性的強要：例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど。

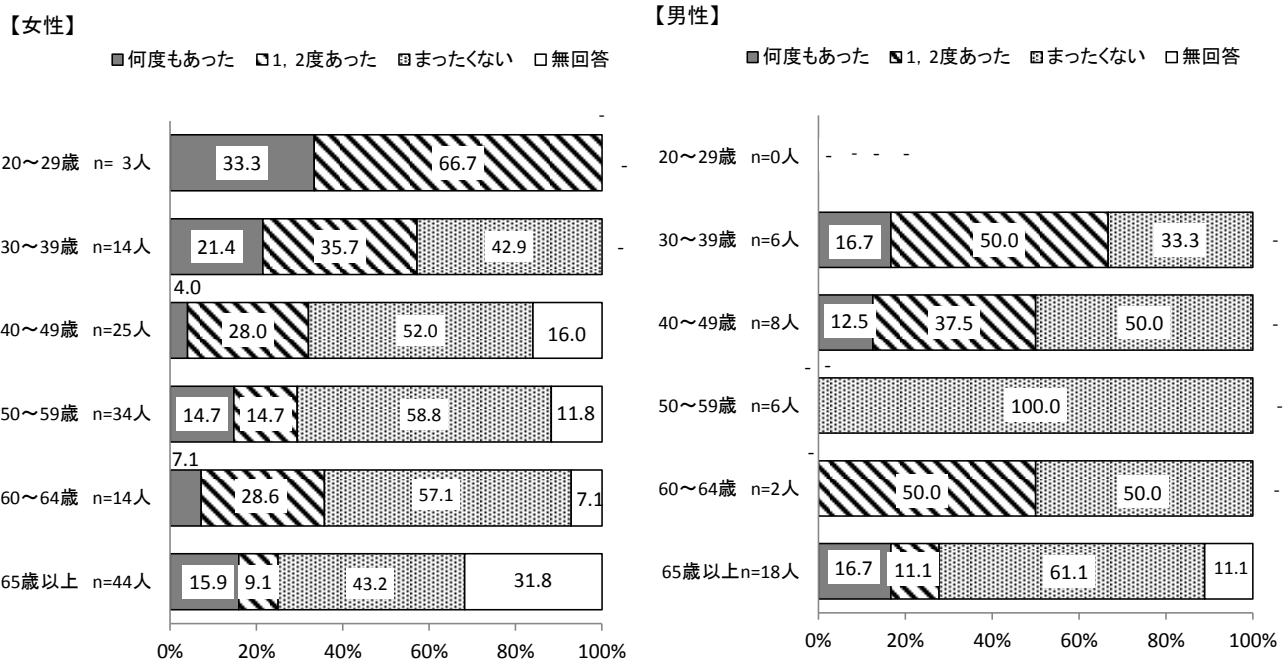
この1年間の被害経験を男女別にみると、いずれかの被害をこの1年間に受けた人は女性で33.6%、男性では35.0%となっている。(図3-2-2)

図3-2-2 配偶者からの被害経験 — この1年間(男女別) —



この1年間の被害経験を性・年齢階級別にみると、いずれかの被害をこの1年間に受けた人の割合は、女性では20代、30代で高くなっている。(図3-2-3)

図3-2-3 配偶者からの被害経験 — この1年間(性・年齢階級別) —



配偶者からこの1年間に被害を受けたことがある人(63人)について、配偶者から受けた“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”の被害をみると、重複した被害を受けている人は34.9%となっている。男女別にみると、女性が42.2%、男性が21.4%となっている。(表3-2-1)

表3-2-1 配偶者からの被害の重複

| | | (この1年間に配偶者からこれまでに被害を受けたことがある人) (%) | | |
|------|------------------------|------------------------------------|------|------|
| | | 総数 | 女 | 男 |
| | (n) | 63人 | 45人 | 14人 |
| 重複あり | | 34.9 | 42.2 | 21.4 |
| | 身体的暴行と心理的攻撃 | 14.3 | 15.6 | 14.3 |
| | 身体的暴行と経済的圧迫 | - | - | - |
| | 身体的暴行と性的強要 | 1.6 | 2.2 | - |
| | 心理的攻撃と経済的圧迫 | 3.2 | 4.4 | - |
| | 心理的攻撃と性的強要 | 3.2 | 2.2 | 7.1 |
| | 経済的圧迫と性的強要 | - | - | - |
| | 身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫 | 1.6 | 2.2 | - |
| | 身体的暴行・心理的攻撃・性的強要 | 4.8 | 6.7 | - |
| | 身体的暴行・経済的圧迫・性的強要 | - | - | - |
| | 心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要 | 6.4 | 8.9 | - |
| | 身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要 | - | - | - |
| 重複なし | | 65.1 | 57.8 | 78.6 |
| | 身体的暴行のみ | 7.9 | 2.2 | 21.4 |
| | 心理的攻撃のみ | 44.4 | 46.7 | 35.7 |
| | 経済的圧迫のみ | 9.5 | 8.9 | 7.1 |
| | 性的強要のみ | 3.2 | - | 14.3 |

*総数には性別について無回答の人も含む。

(3) 配偶者からの被害の相談先

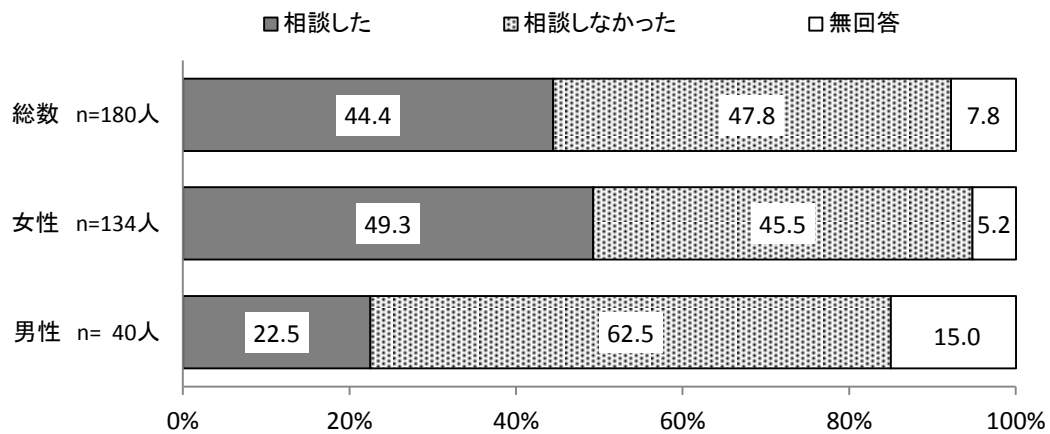
配偶者から何らかの被害を受けたことがあった人（180人）に、被害について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の計を『相談した』としてまとめた。

『相談した』は全体で44.4%、女性は49.3%、男性は22.5%となっている。（図3-3-1）

【問5「①これまで」のA～Dのうち1つでも「2. 1, 2度あった」「3. 何度もあった」と答えた方にお聞きします】

問6 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図3-3-1 配偶者からの被害の相談の有無

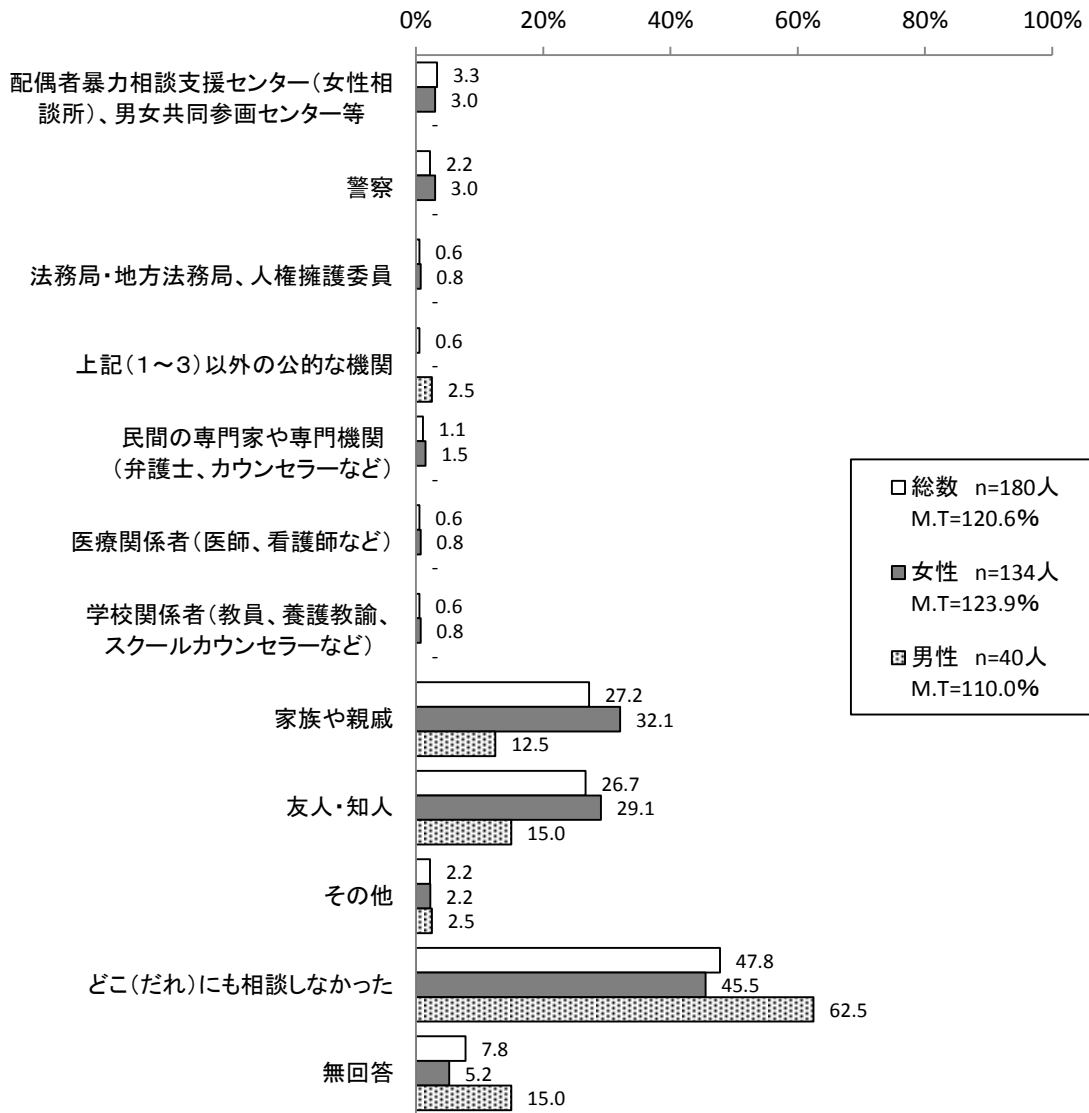


*総数には性別について無回答の人も含む。

相談先をみると、全体で「家族や親戚に相談した」が 27.2%と最も多く、「友人・知人に相談した」が 26.7%となっている。

男女別にみても、男女とも「家族や親戚に相談した」と「友人・知人に相談した」が多くなっている。(図 3-3-2)

図 3-3-2 配偶者からの被害の相談先(複数回答)



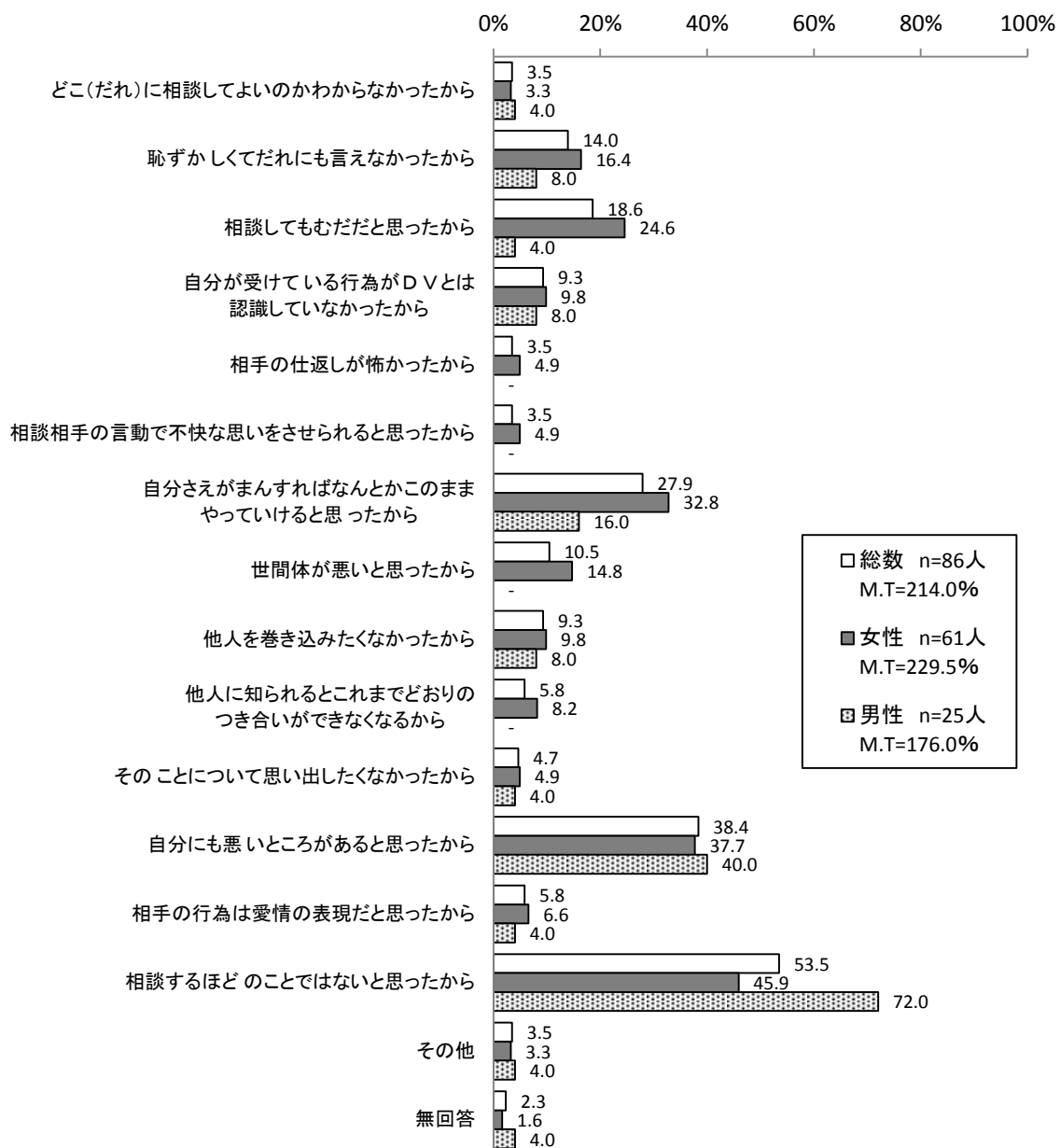
*総数には性別について無回答の人も含む。

(4) 相談しなかった理由

配偶者から受けた被害について、どこ（だれ）にも相談しなかった人（86人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、全体で「相談するほどのことではないと思ったから」が53.5%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が38.4%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が27.9%などとなっている。（図3-4-1）

問7 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図3-4-1 相談しなかった理由(複数回答)



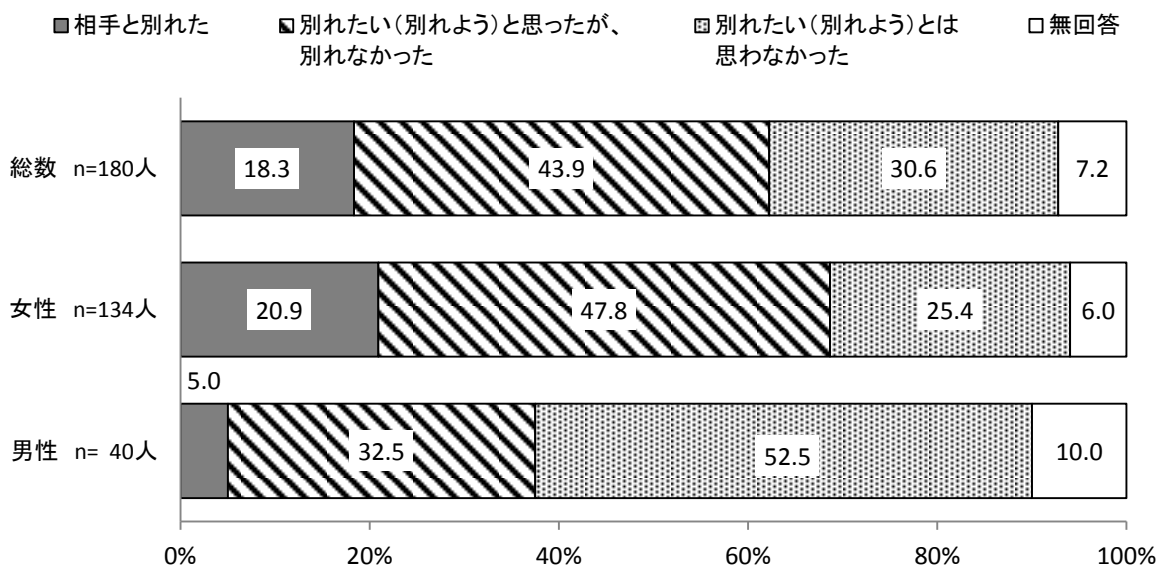
(5) 配偶者から被害を受けたときの行動

これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人(180人)に、その行為を受けたとき、相手との関係をどうしたのかを聞いたところ、全体で「相手と別れた」が18.3%、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」が43.9%、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」が30.6%となっている。

男女別にみると、女性は、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」(女性47.8%、男性32.5%)が最も多く、男性は、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」(女性25.4%、男性52.5%)が多くなっている。(図3-5-1)

問8 あなたは、あなたの配偶者からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図3-5-1 配偶者から被害を受けたときの行動



*総数には性別について無回答の人も含む。

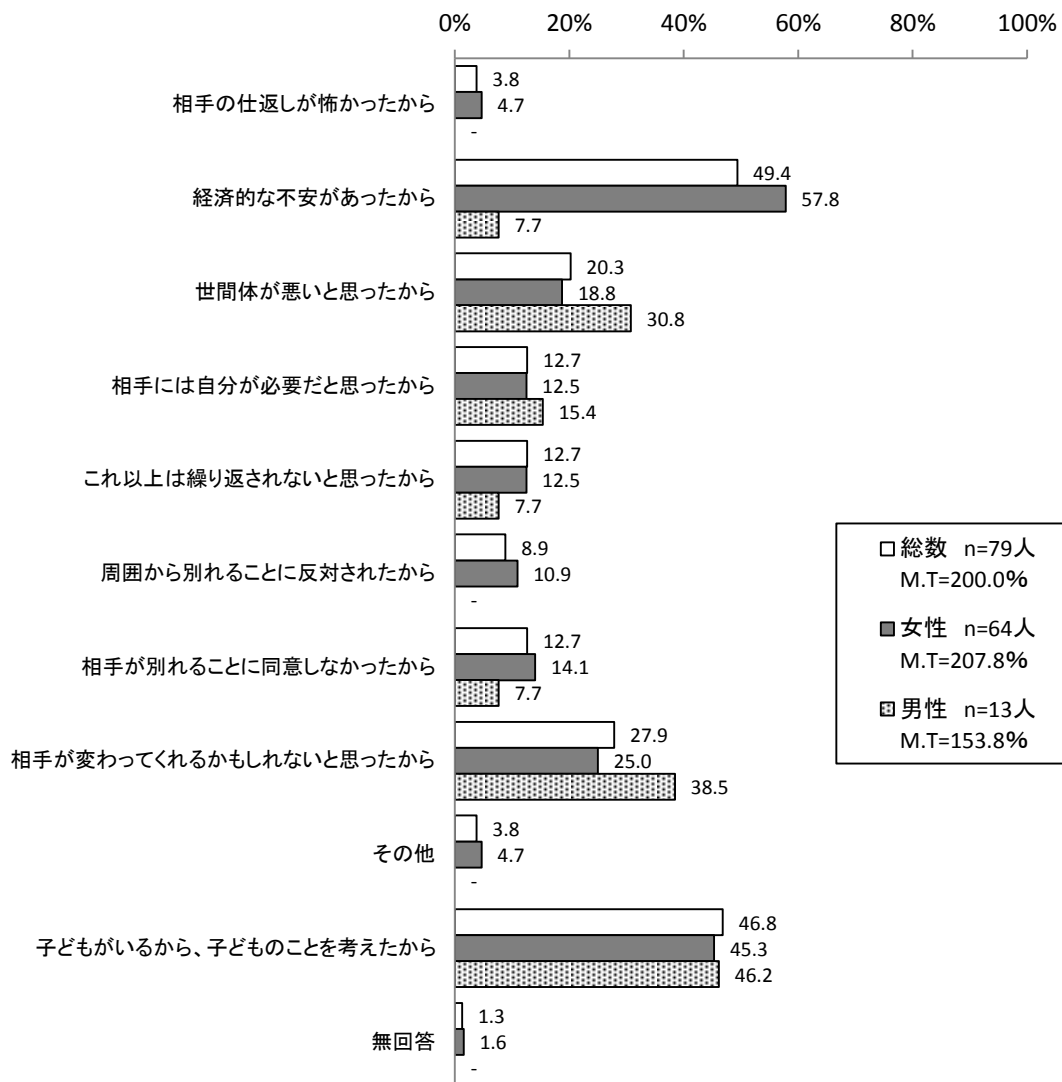
(6) 配偶者と別れなかった理由

配偶者から何らかの被害を受けたとき、相手と「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」という人（79人）に別れなかった理由を聞いたところ、全体で「経済的な不安があったから」が49.4%と最も多く、次いで「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が46.8%などとなっている。

男女別にみると、女性では「経済的な不安があったから」（57.8%）が最も多く、次いで「子どもがいるから、子どものことを考えたから」（45.3%）、男性は「子どもがいるから、子どものことを考えたから」（46.2%）が最も多く、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」（38.5%）、「世間体が悪いと思ったから」（30.8%）などが多くなっている。（図3-6-1）

【問8で「2. 別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」と答えた方にお聞きします。
 問9 あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
 （○はいくつでも）

図3-6-1 配偶者と別れなかった理由(複数回答)



*総数には性別について無回答の人も含む。

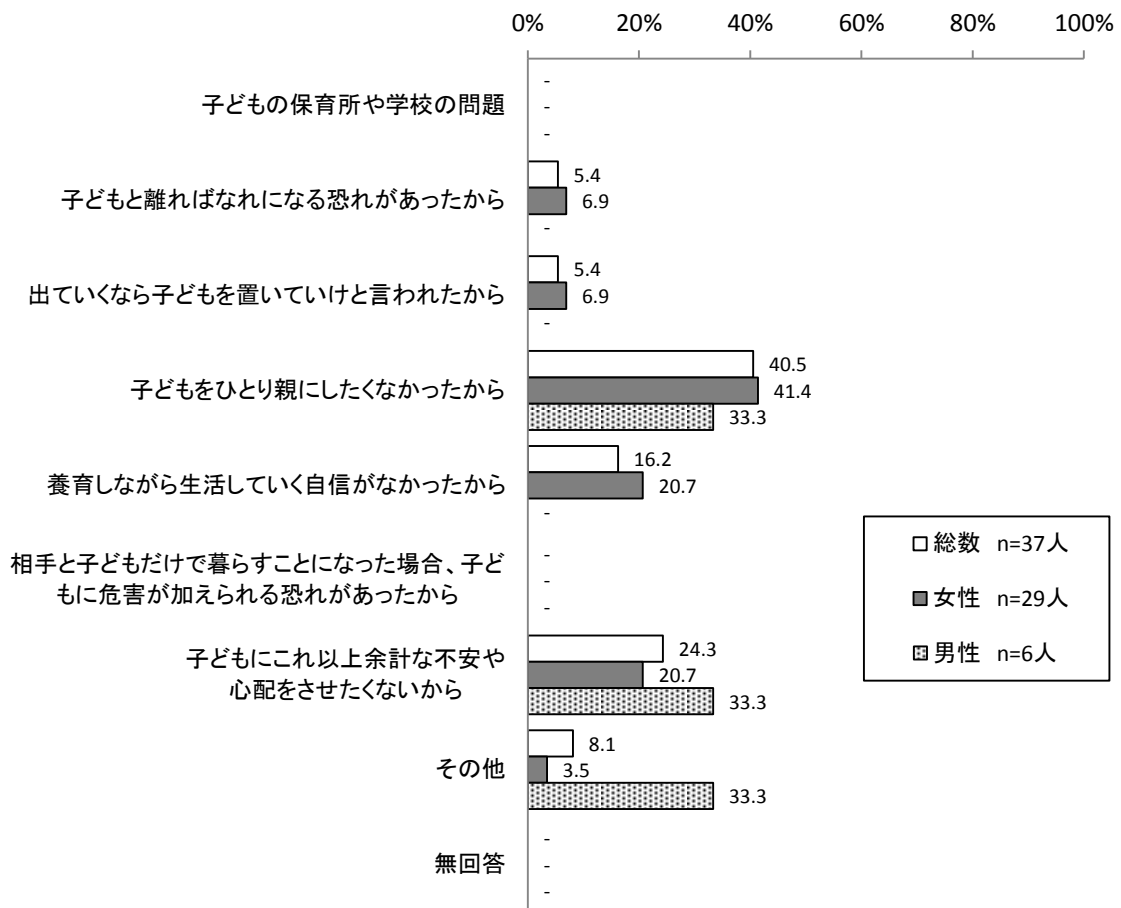
(7) 子どものことが原因で別れなかった理由

「子どもがいるから、子どものことを考えたから」という理由で相手と別れなかった人(37人)に、子どものことで相手と別れなかった最も大きな理由を聞いたところ、全体で「子どもをひとり親にしたくなかったから」が40.5%と最も多く、次いで「子どもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」が24.3%などとなっている。(表3-7-1)

また、女性では「養育しながら生活していく自信がなかったから」が20.7%(男性0%)となっている。

【問9で「10. 子どもがいるから、子どものことを考えたから」に○をつけた方にお聞きします。】
 問10 あなたが、子どものことで相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

表3-7-1 子どものことが原因で別れなかった理由



*総数には性別について無回答の人も含む。

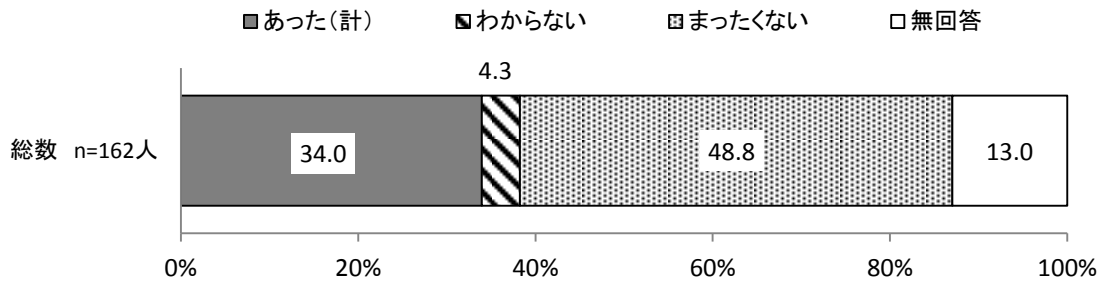
(8) 子どもの被害経験

これまでに配偶者から被害を受けたことがあり、子どもがいる人(162人)に、子どもが配偶者から被害を受けたことがあるかを聞き、何らかの被害経験を回答した人の計を『あった』としてまとめた。

『あった』は34.0%となっている。(図3-8-1)

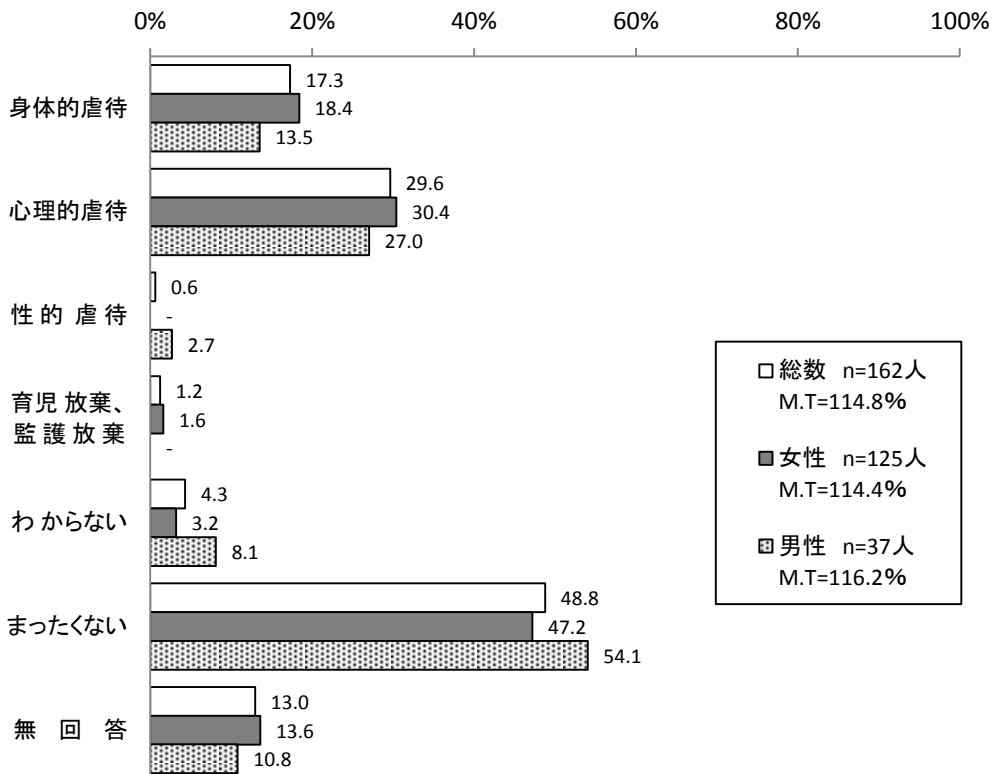
【お子さんがいる方にお聞きします】
 問 11 あなたのお子さんは、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図 3-8-1 子どもの被害経験の有無



子どもの被害経験の内容をみると、全体で「心理的虐待(大声でどなる、無視、存在否定、自尊心を踏みにじる行為など)」が29.6%と最も多く、次いで「身体的虐待(なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりする)」が17.3%となっている。(図3-8-2)

図 3-8-2 子どもの被害経験(複数回答)



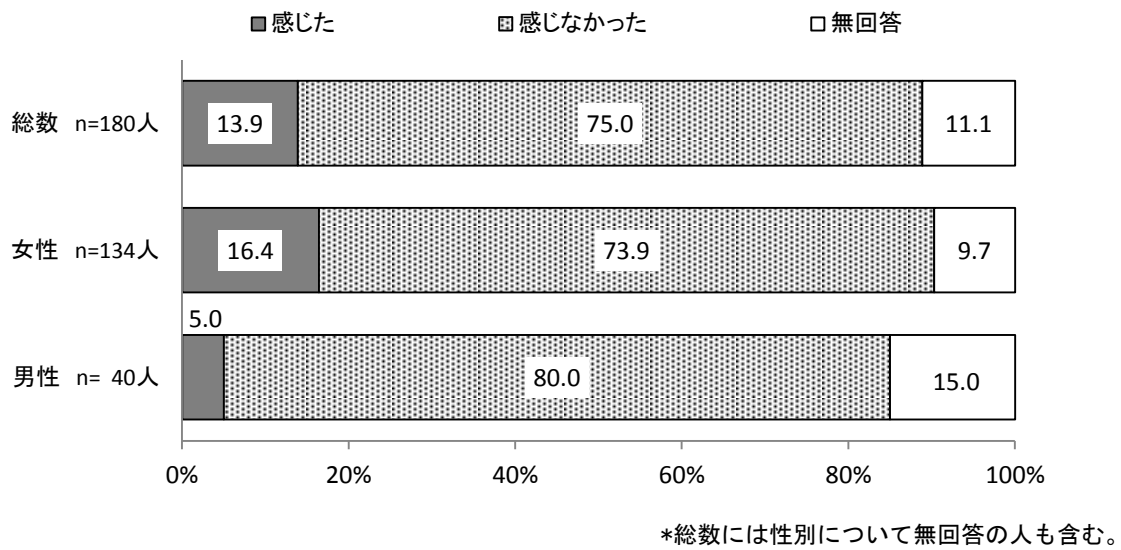
(9) 命の危険を感じた経験

これまでに配偶者から被害を受けたことのある人(180人)に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるか聞いたところ、全体で、命の危険を「感じた」が13.9%となっている。

男女別にみると、命の危険を「感じた」は、女性が16.4%、男性が5.0%となっている。(図3-9-1)

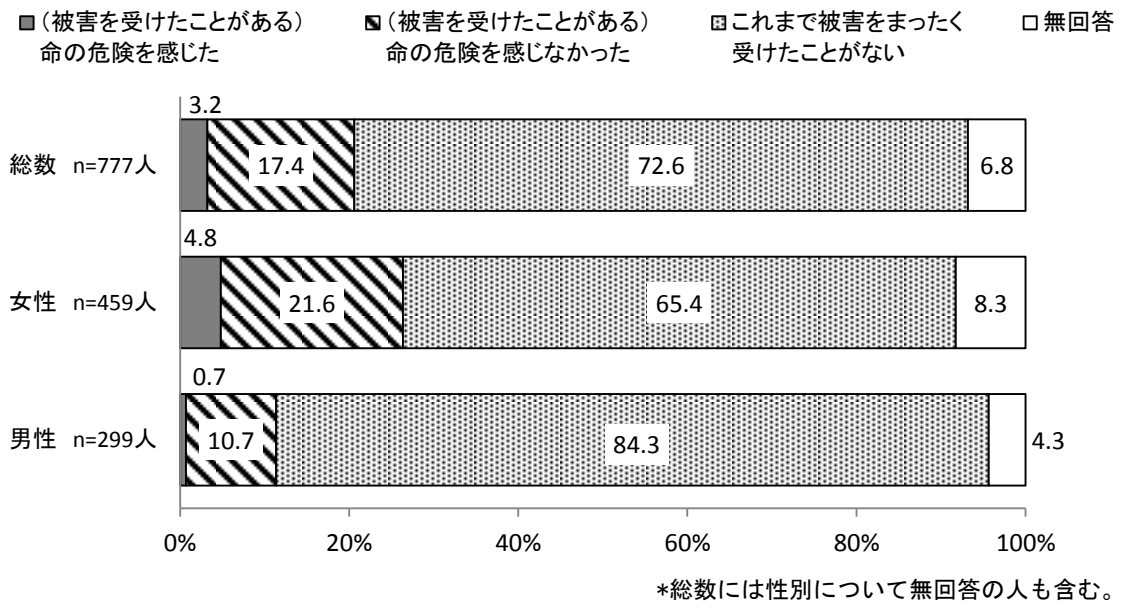
問 12 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図3-9-1 命の危険を感じた経験



これまでに被害を受けたことのない人も含めて、結婚したことのある人全体(777人)でみると、命の危険を「感じた」という人は3.2%で、女性は4.8%、男性は0.7%となっている。(図3-9-2)

図3-9-2 命の危険を感じた経験(全体ベース)



4 交際相手からの被害経験

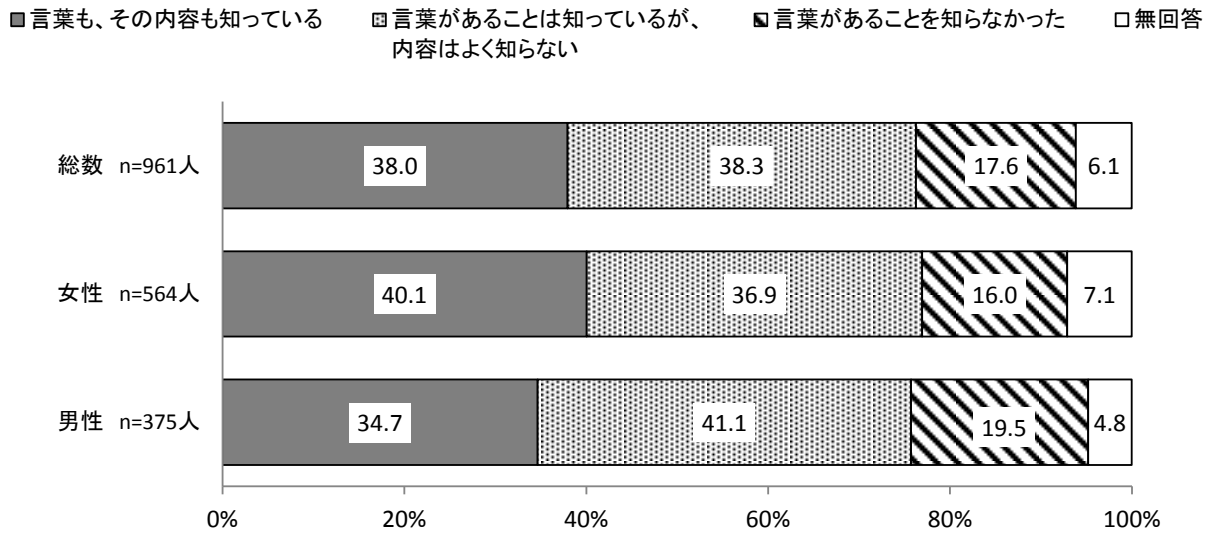
(1) 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度

「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について知っているか聞いたところ、全体で「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が38.3%で「言葉も、その内容も知っている」が38.0%となっており、これらを合わせると7割を超えている。（図4-1-1）

【すべての方にお聞きします。】

問13 あなたは「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-1-1 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度



*総数には性別について無回答の人も含む。

性・年齢階級別にみると、「交際相手からの暴力（デートDV）」について、「言葉も、その内容も知っている」が20代と40代の女性では半数近くとなっている。（図4-1-2、4-1-3）

図4-1-2 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度（性・年齢階級別）【女性】

【女性】

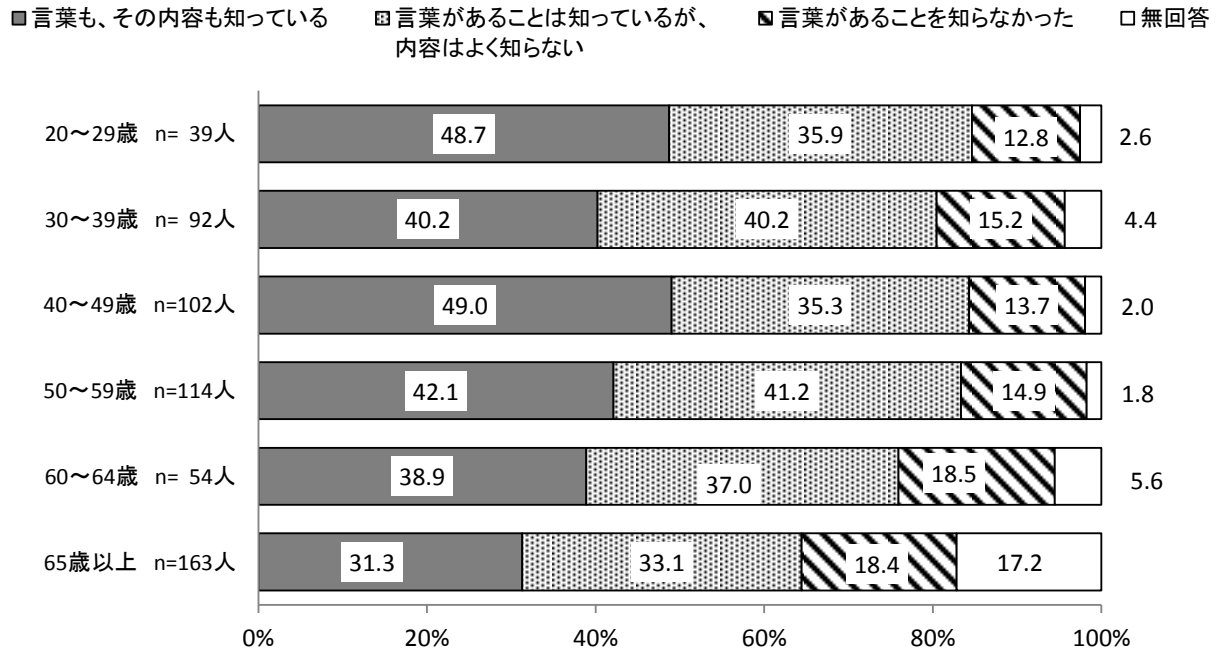
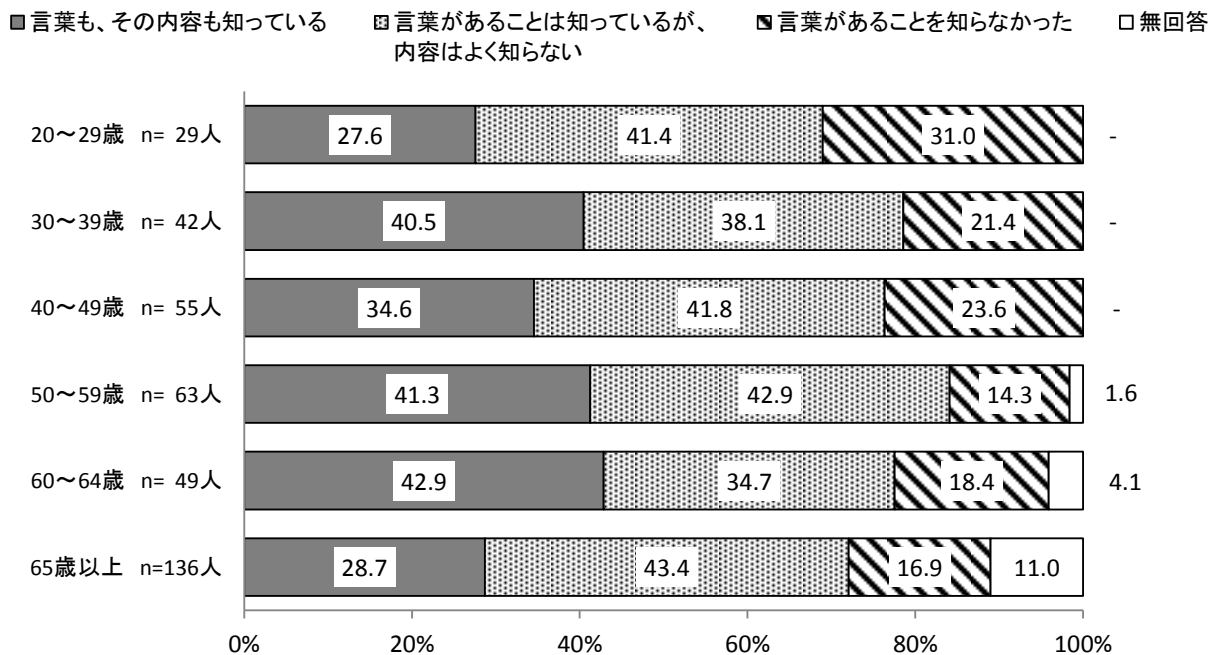


図4-1-3 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度（性・年齢階級別）【男性】

【男性】



*年齢について無回答の人がいるためnの合計は男性合計（375人）と一致しない。

(2) 交際相手からの被害経験

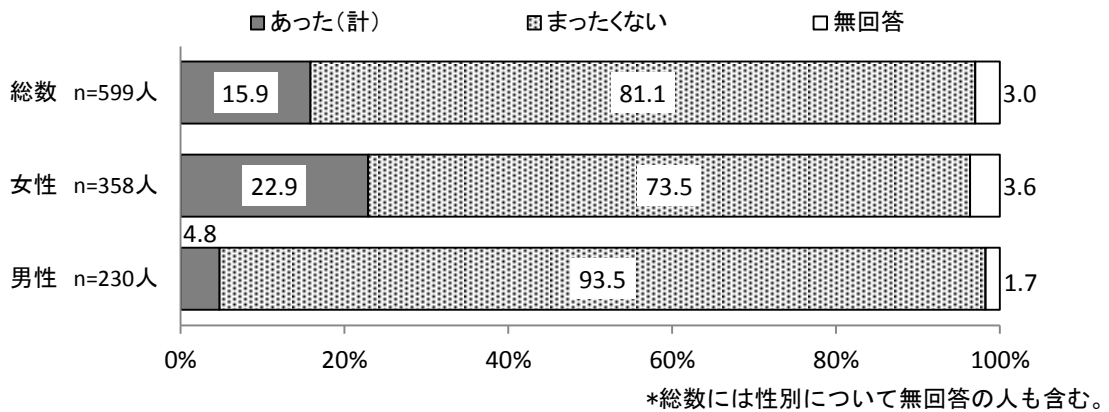
「交際相手がいた(いる)」という人(599人)に、“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”の4つの行為をあげて、当時の交際相手から被害を受けたことがあるかをそれぞれの行為について聞き、いずれかについて交際相手から被害を受けたことがある人(「10~20歳代にあった」もしくは「30歳代以上にあった」のいずれかを回答した人の計)をまとめた。

当時の交際相手から“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”のいずれかの被害を受けたことが『あった』が全体で15.9%、女性が22.9%、男性が4.8%となっている。(図4-2-1)

【交際相手からの暴力被害についてお聞きします。複数の交際相手から暴力を受けた方については、あなたがより深く傷ついた経験の1つについてお答えください。】

問15 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。「①交際相手」のA~Dそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。また、「①交際相手」と同居した経験(いわゆる「同棲経験」)がある方は、「②同居の際」のA~Dについてのお答えください。
(○はそれぞれいくつでも)

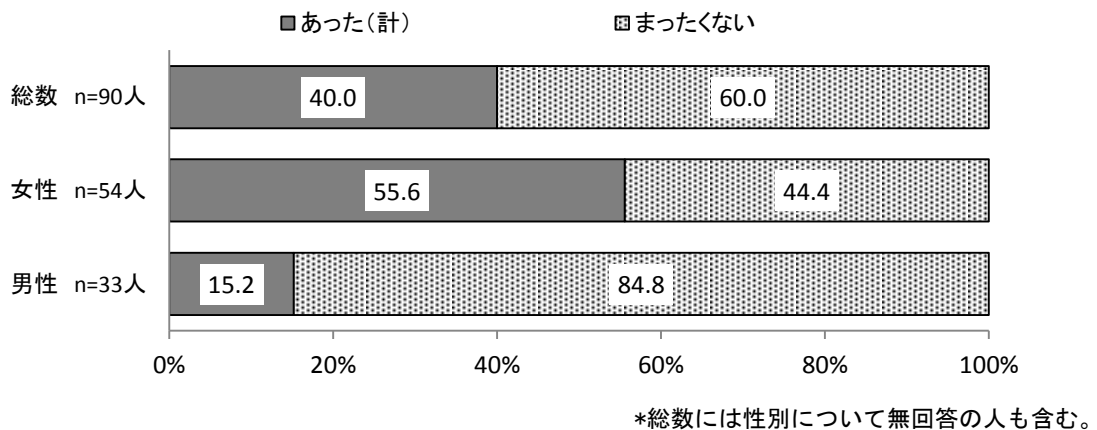
図4-2-1 交際相手からの被害経験の有無(①これまで)



交際相手と同居した経験(いわゆる「同棲経験」)がある人(90人)に、その同居の際の被害経験を聞いたところ、いずれかの被害を受けたことが『あった』が全体で40.0%、女性が55.6%、男性が15.2%となっている。(図4-2-2)

*「②同居の際」は、暴力被害の有無に関わらず、交際相手と同居した経験がある人のうち、A“身体的暴行”、B“心理的攻撃”、C“経済的圧迫”、D“性的強要”のいずれかに回答をした人のみ集計しているため、無回答はない。

図4-2-2 交際相手からの被害経験の有無(②同居の際)



性・年齢階級別にみると、女性では20代、40代で被害経験が多く、3割を超えている(図4-2-3、4-2-4)

図4-2-3 交際相手からの被害経験の有無(性・年齢階級別)【女性】

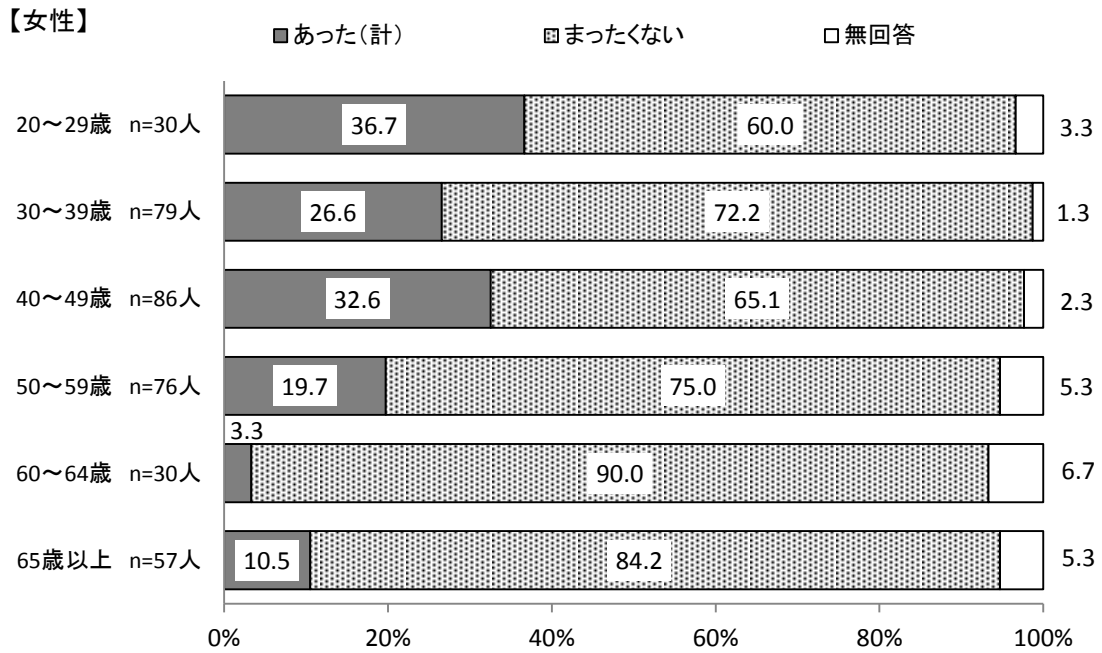
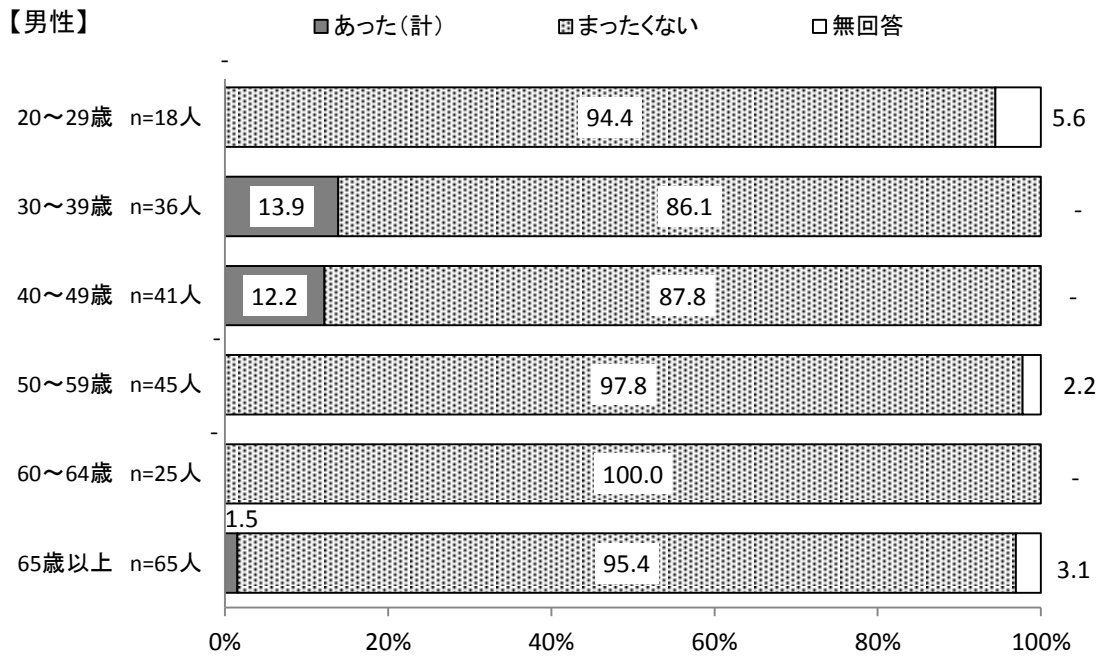
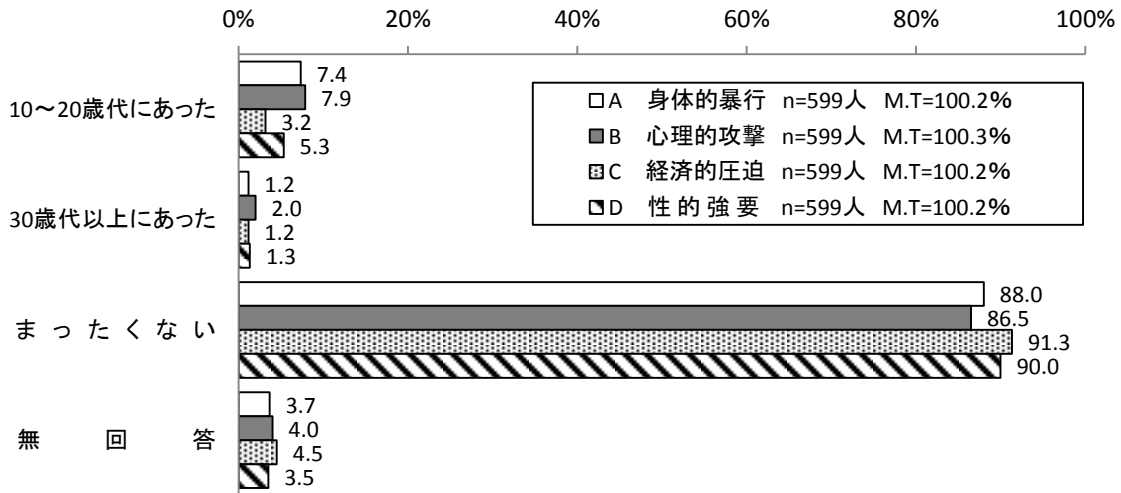


図4-2-4 交際相手からの被害経験の有無(性・年齢階級別)【男性】



【注】“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”のそれぞれをみると、“身体的暴行”が「10～20 歳代にあった」が 7.4%、「30 歳代以上にあった」が 1.2%となっている。“心理的攻撃”は「10～20 歳代にあった」が 7.9%、「30 歳代以上にあった」が 2.0%となっている。“経済的圧迫”は「10～20 歳代にあった」が 3.2%、「30 歳代以上にあった」が 1.2%となっている。“性的強要”は「10～20 歳代にあった」が 5.3%、「30 歳代にあった」が 1.3%となっている。(図 4-2-5)

図 4-2-5 交際相手からの被害経験(複数回答)

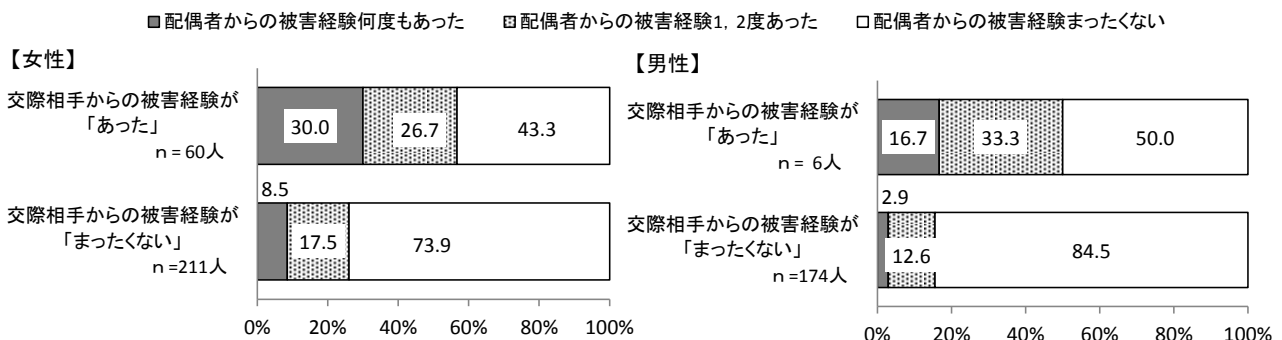


【注】

- A 身体的暴行：例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行。
- B 心理的攻撃：例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫。
- C 経済的圧迫：例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど。
- D 性的強要：例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど。

交際相手からの被害経験の有無別に、配偶者からの被害経験の有無をみると、女性で交際相手からの被害経験がある人(60人)では、配偶者からの被害経験もある人が56.7%(何度もあった人30.0%、1,2度あった人26.7%)となっているのに対し、交際相手からの被害経験のない人(211人)では、配偶者からの被害経験がある人が26.0%(何度もあった人8.5%、1,2度あった人17.5%)となっている。(図 4-2-6)

図 4-2-6 配偶者からの被害経験の有無(性・交際相手からの被害経験の有無別)

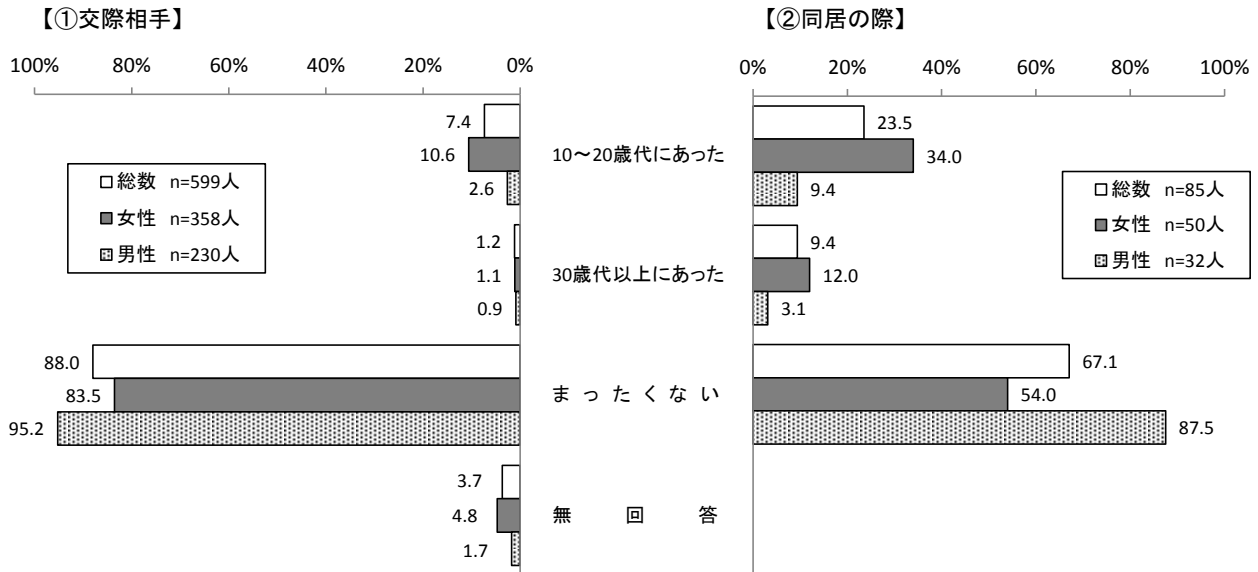


交際相手からの被害経験を男女別にみると、いずれの行為についても男性より女性の方が被害経験のある人が多くなっている。特に“身体的暴行”と“心理的攻撃”が多い。

交際相手との同居の際の被害経験をみると、全体で“身体的暴行”と“心理的攻撃”の「10～20歳代にあった」で多くなっている。男女別にみると、いずれの行為も男性よりも女性の被害経験が多くなっている。(図4-2-7、4-2-8、4-2-9、4-2-10)

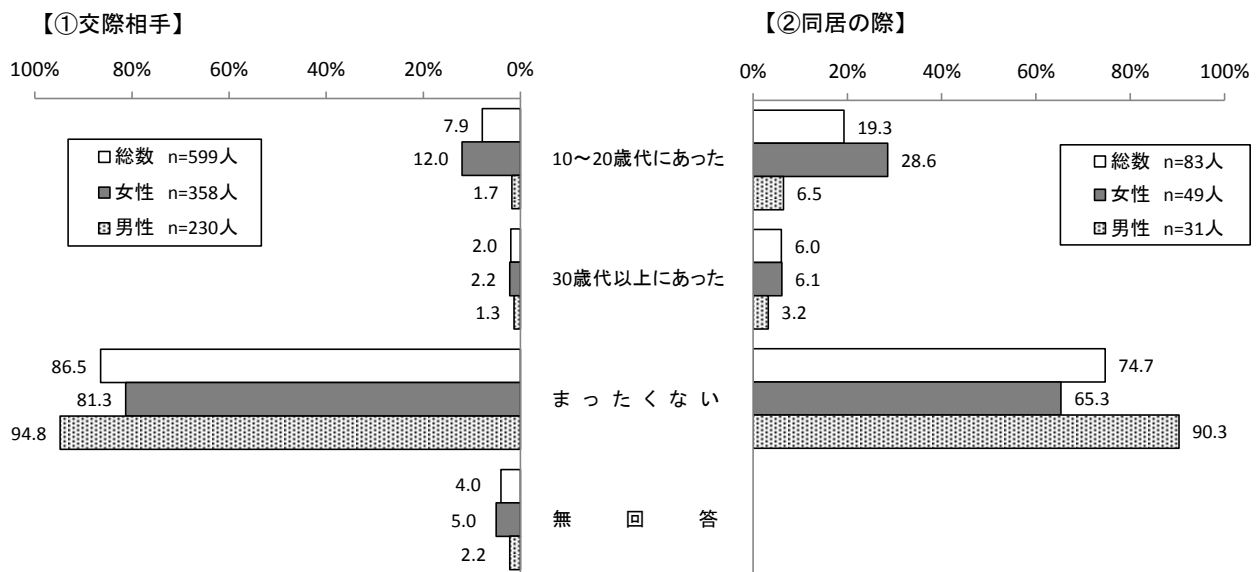
*「②同居の際」は、暴力被害の有無に関わらず、交際相手と同居した経験がある人のうち、A“身体的暴行”、B“心理的攻撃”、C“経済的圧迫”、D“性的強要”のいずれかに回答をした人のみ集計しているため、無回答はない。

図4-2-7 交際相手からの被害経験(男女別)(複数回答)【A身体的暴行】



*総数には性別について無回答の人も含む。

図4-2-8 交際相手からの被害経験(男女別)(複数回答)【B心理的攻撃】



*総数には性別について無回答の人も含む。

図 4-2-9 交際相手からの被害経験(男女別)(複数回答)【C経済的圧迫】

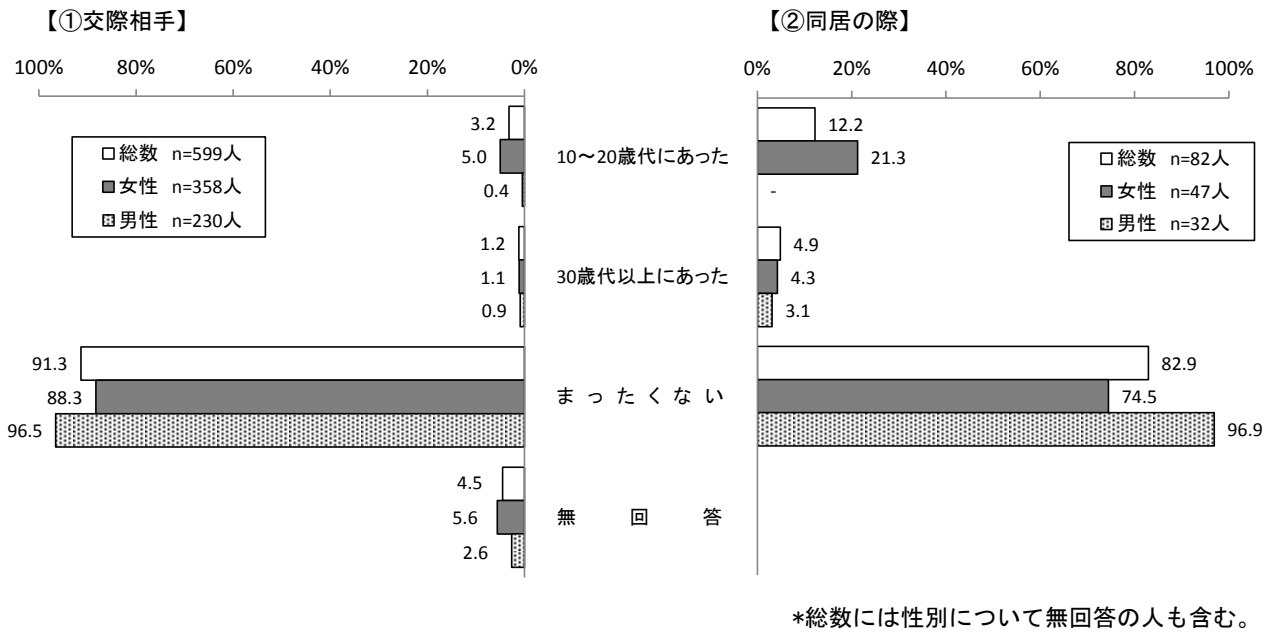
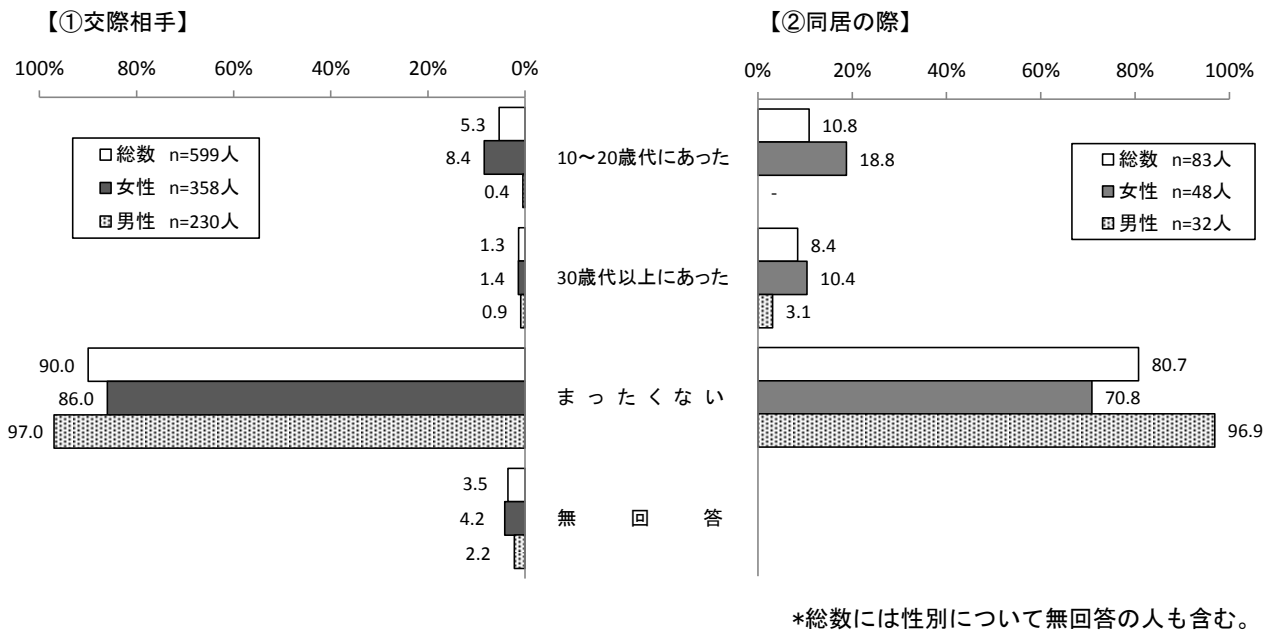


図 4-2-10 交際相手からの被害経験(男女別)(複数回答)【D性的強要】



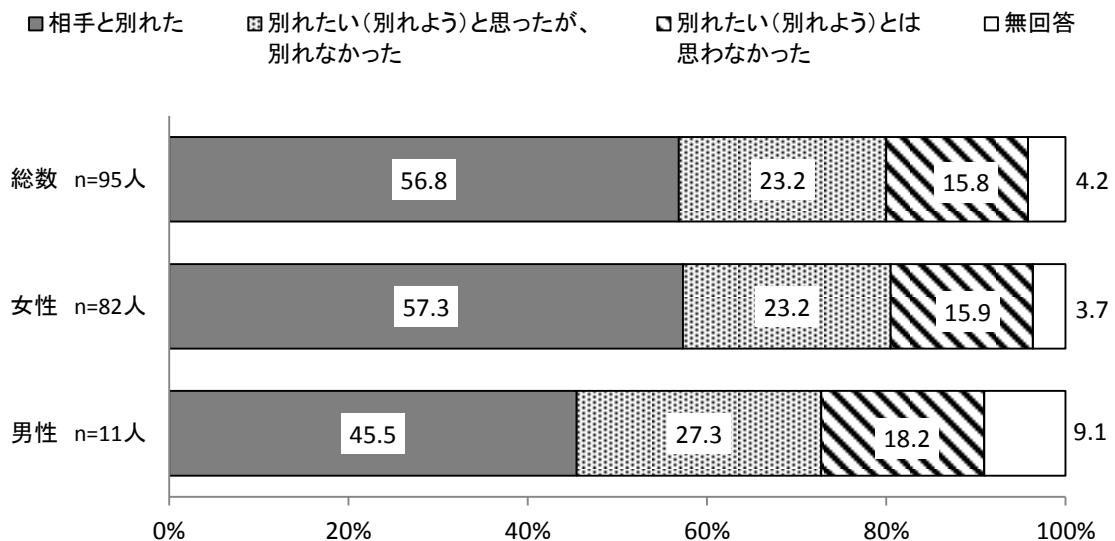
(3) 交際相手から被害を受けたときの行動

交際相手から被害を受けたことがある人(95人)に、その行為を受けたとき、相手との関係をどうしたのか聞いたところ、全体で「相手と別れた」が56.8%で半数を超え、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」が23.2%、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」が15.8%となっている。

男女別にみると、女性は「相手と別れた」が57.3%で半数を超え、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」という人は15.9%となっている。一方、男性は「相手と別れた」が45.5%で、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」が18.2%となっている。(図4-3-1)

問 16 あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図4-3-1 交際相手から被害を受けたときの行動



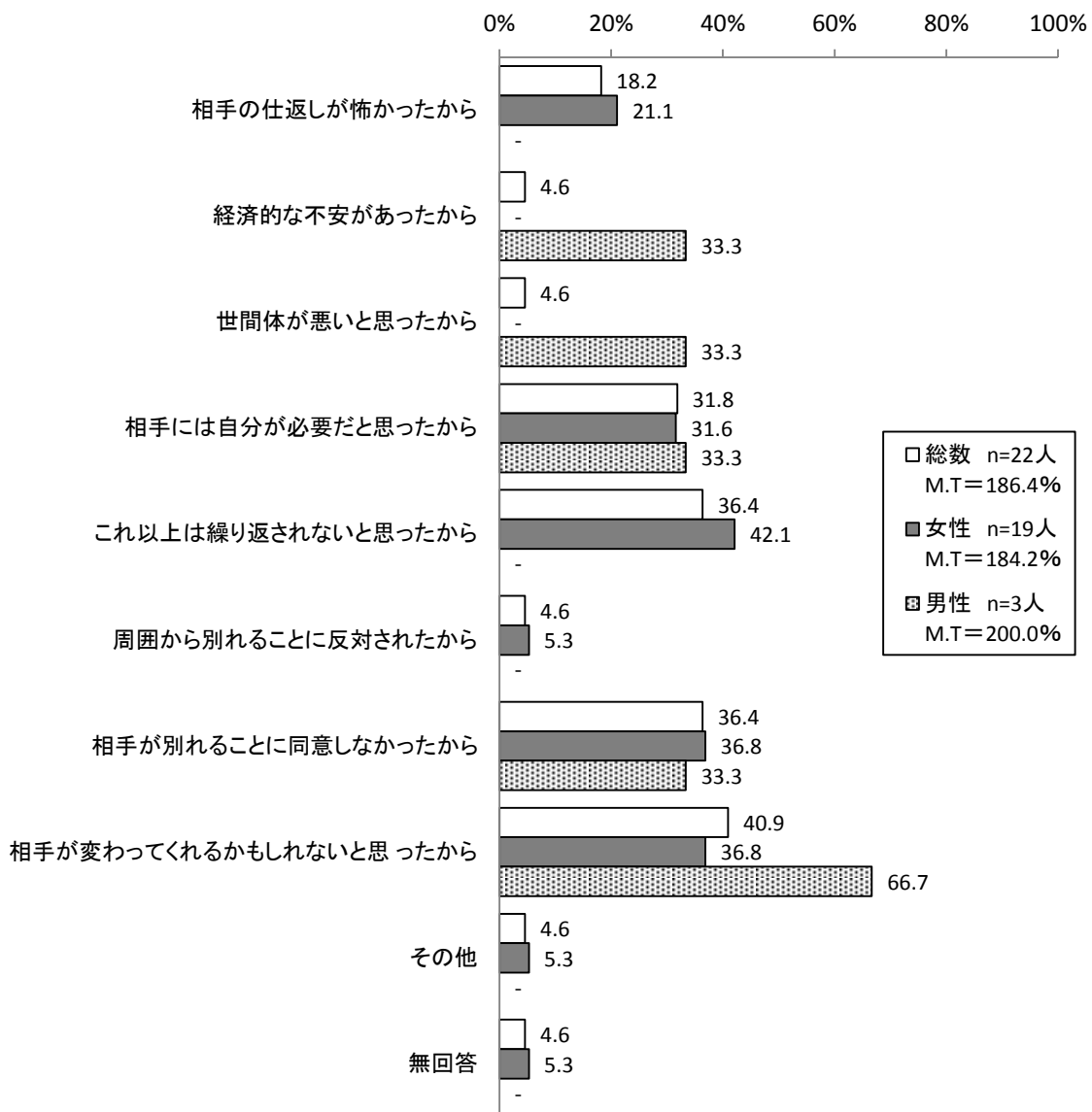
*総数には性別について無回答の人も含む。

(4) 交際相手と別れなかった理由

交際相手から何らかの被害を受けたとき、相手と「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」という人（22人）に、その理由を聞いたところ、全体で「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が40.9%、「これ以上は繰り返されないと考えたから」と「相手が別れることに同意しなかったから」がともに36.4%、「相手には自分が必要だと思ったから」が31.8%などとなっている。（図4-4-1）

問17 あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-4-1 交際相手と別れなかった理由(複数回答)

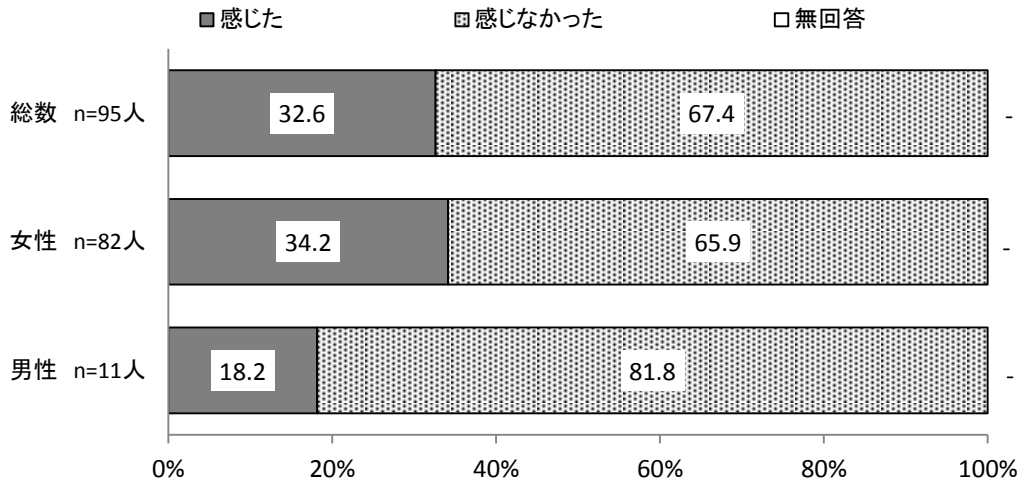


(5) 命の危険を感じた経験

交際相手から何らかの被害を受けたことのある人(95人)に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるかを聞いたところ、全体で「感じた」は32.6%であり、女性が34.2%、男性が18.2%となっている。(図4-5-1)

問18 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

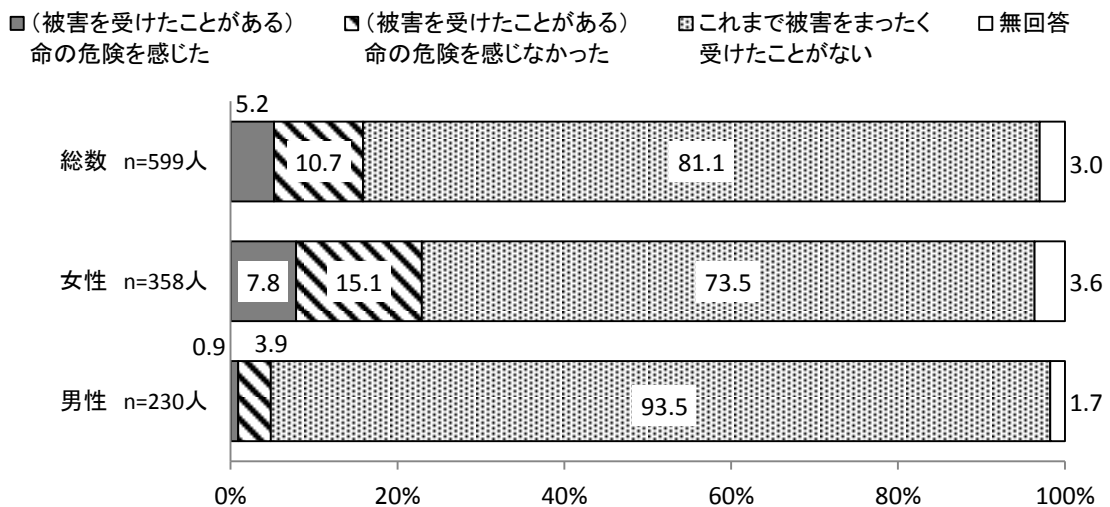
図4-5-1 命の危険を感じた経験



*総数には性別について無回答の人も含む。

交際相手からの被害を受けたことがない人も含め、「交際相手がいた(いる)」という人(599人)でみると、全体で命の危険を「感じた」は5.2%であり、女性が7.8%、男性が0.9%となっている。(図4-5-2)

図4-5-2 命の危険を感じた経験(全体ベース)



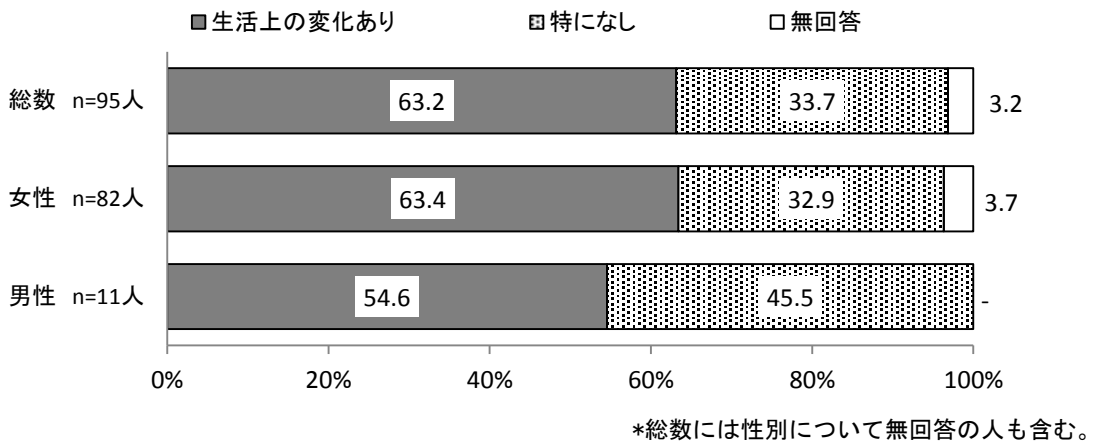
*総数には性別について無回答の人も含む。

(6) 生活上の変化

交際相手から何らかの被害を受けたことのある人(95人)に、被害によって引き起こされた生活上の変化を聞き、何らかの変化があったと回答した人を「生活上の変化あり」としてまとめた。全体で『生活上の変化があった』は63.2%で、女性が63.4%、男性が54.6%となっている。(図4-6-1)

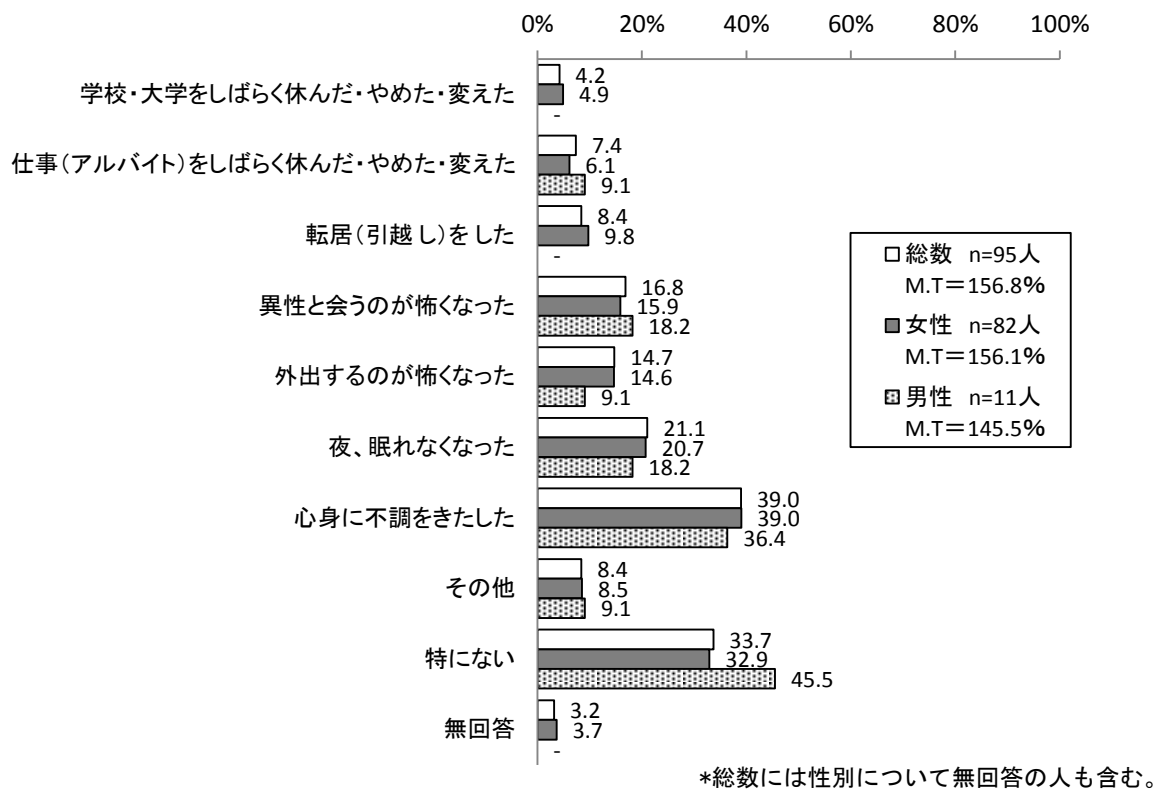
問19 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図4-6-1 交際相手からの被害による生活上の変化の有無



実際の生活上の変化の内容をみると、男女ともに「心身に不調をきたした」が最も多くなっている。(図4-6-2)

図4-6-2 交際相手からの被害による生活上の変化(複数回答)



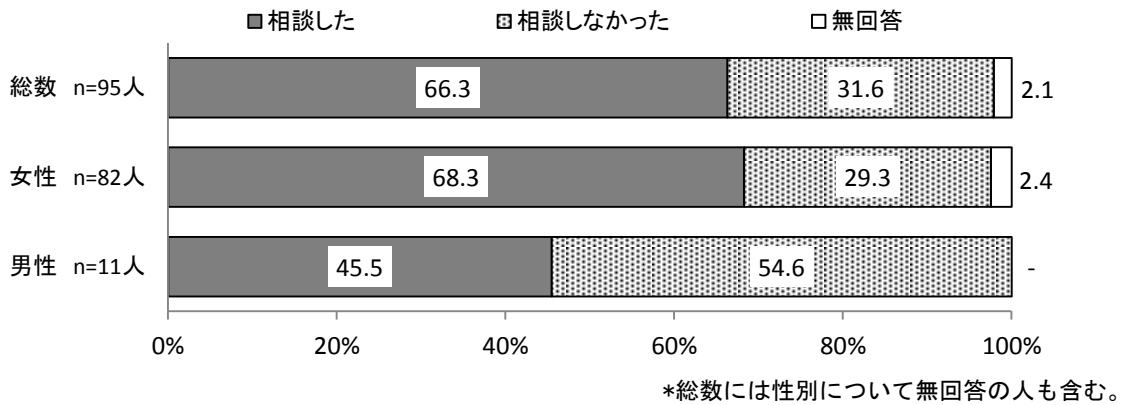
(7) 交際相手からの被害の相談先

交際相手から被害を受けたことがある人(95人)に、被害の状況について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』にまとめた。

全体で『相談した』は66.3%であり、女性が68.3%、男性が45.5%となっている。(図4-7-1)

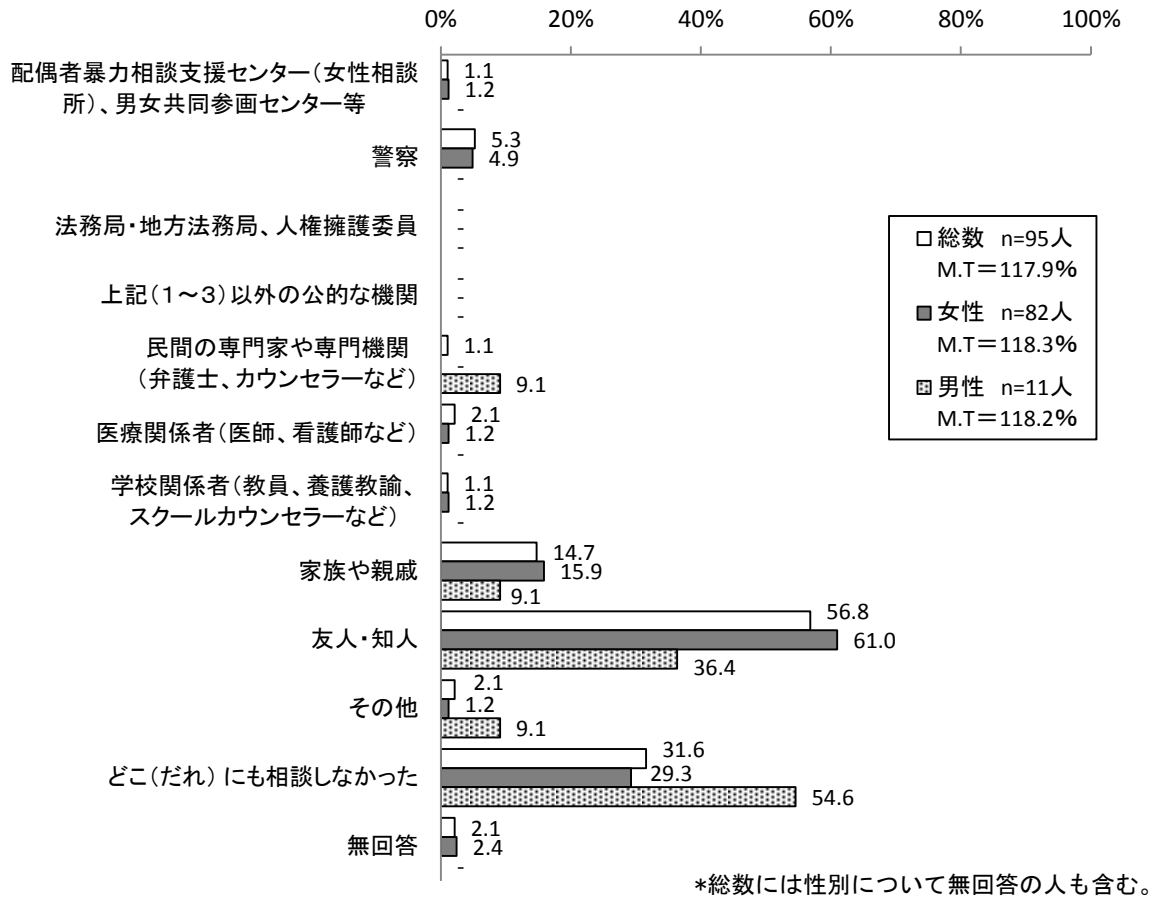
問 20 あなたは、交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図4-7-1 交際相手からの被害の相談の有無



相談先をみると、男女とも「友人・知人」が最も多くなっている。(図4-7-2)

図4-7-2 交際相手からの被害の相談先(複数回答)



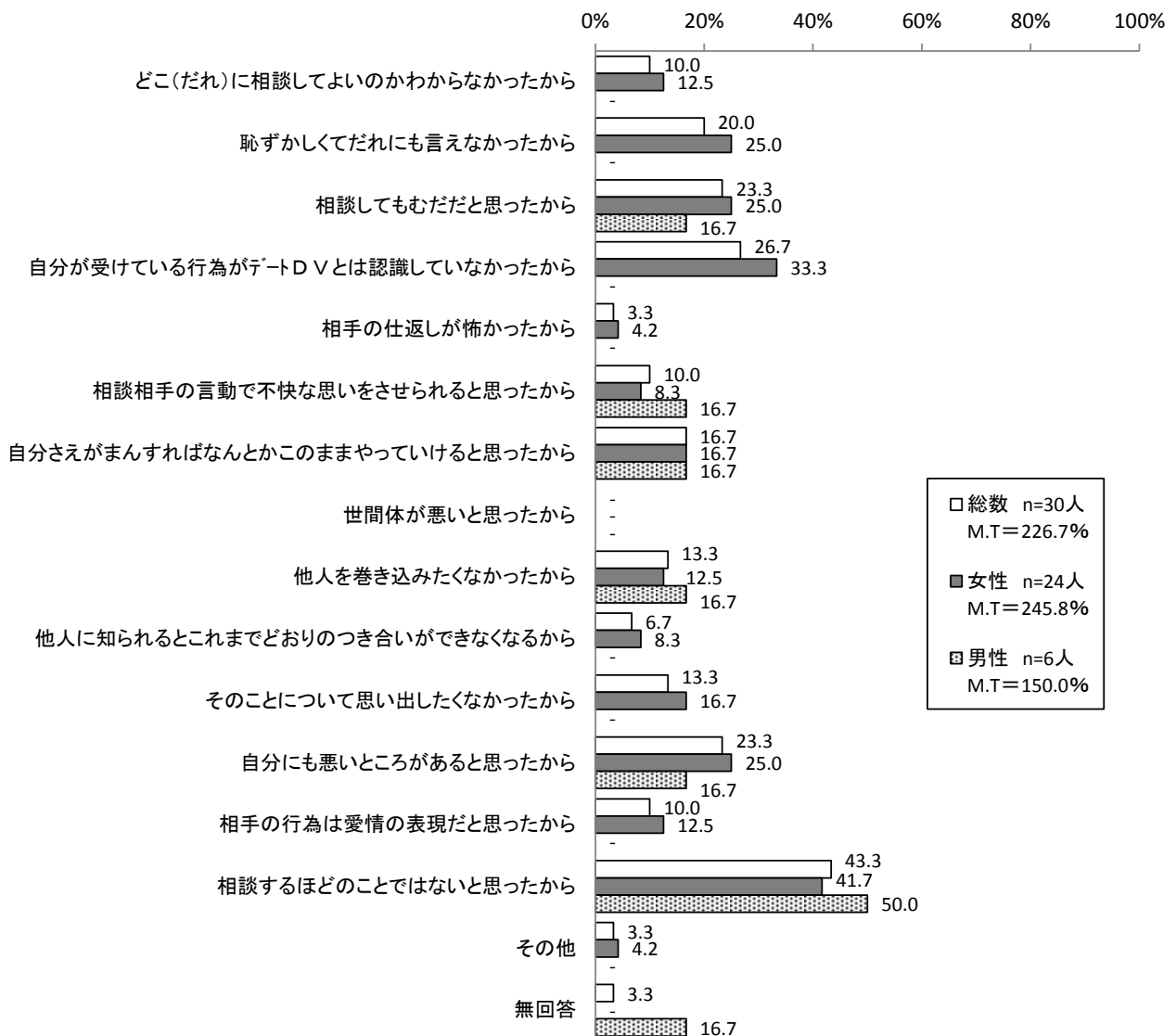
(8) 相談しなかった理由

交際相手から受けた被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（30人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、全体で「相談するほどのことではないと思ったから」が43.3%、次いで「自分が受けている行為がデートDVとは認識していなかったから」が26.7%、「相談してもむだだと思ったから」と「自分にも悪いところがあったから」がともに23.3%などとなっている。

男女別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、次いで女性では、「自分が受けている行為がデートDVとは認識していなかったから」が33.3%となっている。（図4-8-1）

問 21 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-8-1 相談しなかった理由(複数回答)



5 特定の異性からの執拗なつきまとい等の経験

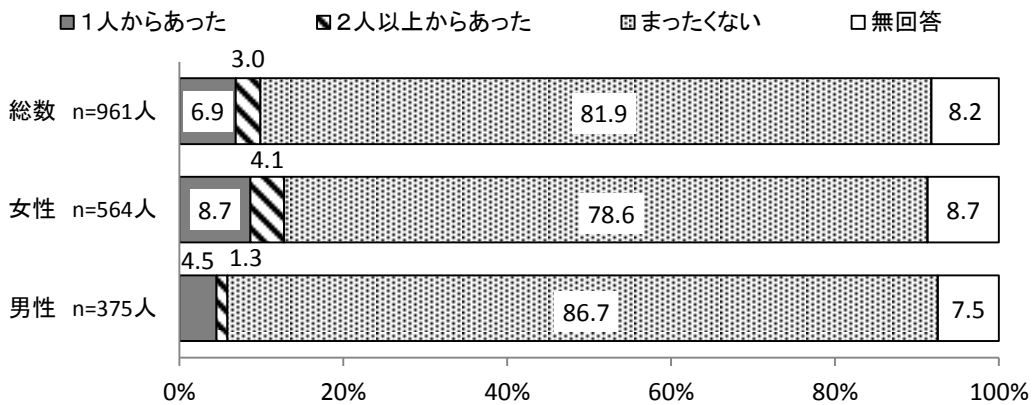
(1) 被害経験の有無

これまでにある特定の異性から執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・メールなどの被害にあったことがあるか聞いたところ、全体で「1人からあった」という人が6.9%、「2人以上からあった」という人が3.0%で、被害経験のある人は9.9%となっている。

男女別にみると、被害経験のある女性は12.8%、男性は5.8%となっている。(図5-1-1)

問22 あなたはこれまでに、ある特定の異性から、執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・メールなどの被害にあったことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

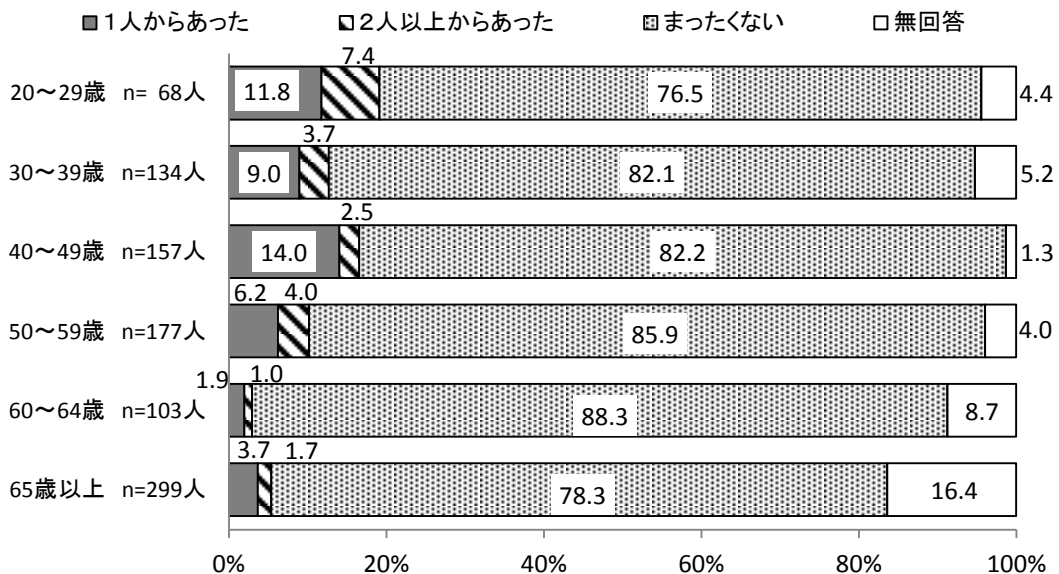
図5-1-1 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無



*総数には性別について無回答の人も含む。

年齢階級別にみると、特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害が『あった』という人は20～29歳が19.2%、40～49歳が16.5%、30～39歳が12.7%の順となっている。(図5-1-2)

図5-1-2 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無(年齢階級別)



*性別・年齢について無回答の人は含まれていない。

性・年齢階級別にみると、特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害が『あった』という人は女性の20代で30%を超えている。(図5-1-3、5-1-4)

図5-1-3 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無(性・年齢階級別)【女性】

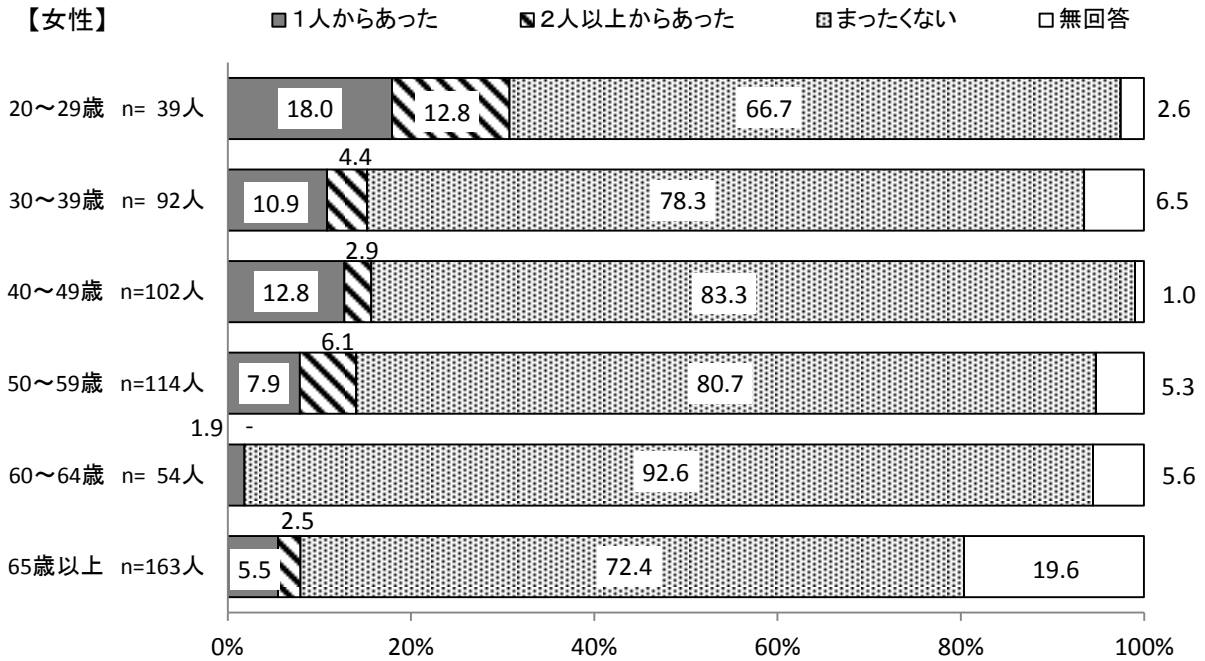
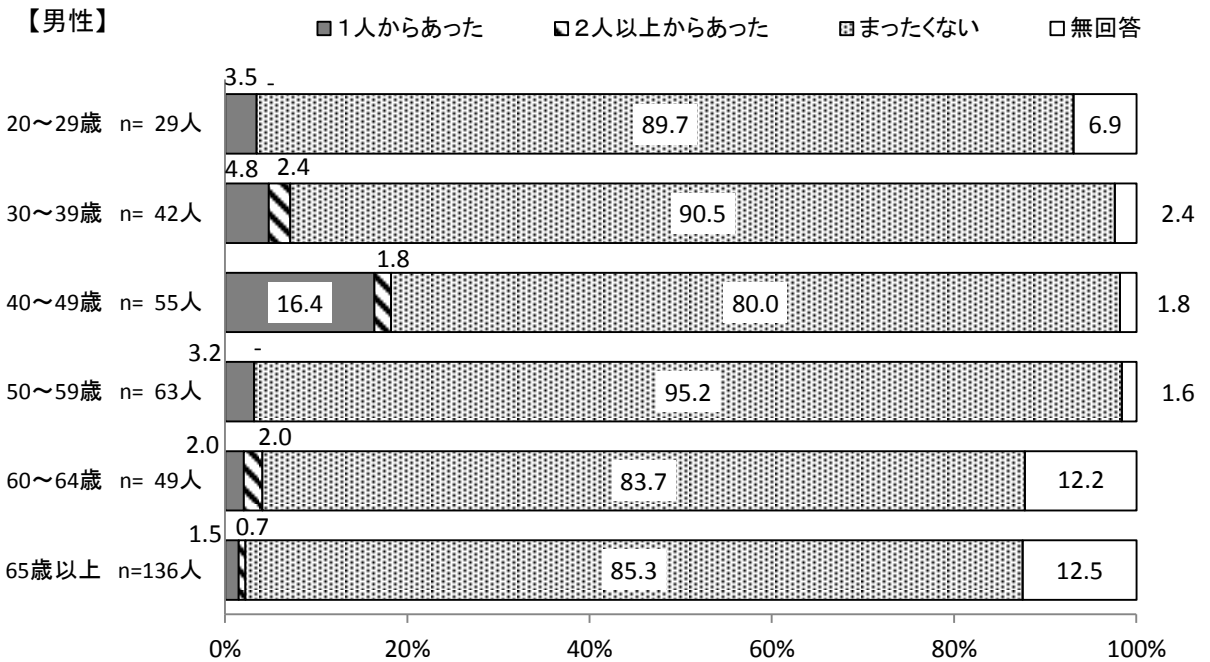


図5-1-4 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無(性・年齢階級別)【男性】



*年齢について無回答の人がいるためnの合計は男性合計(375人)と一致しない。

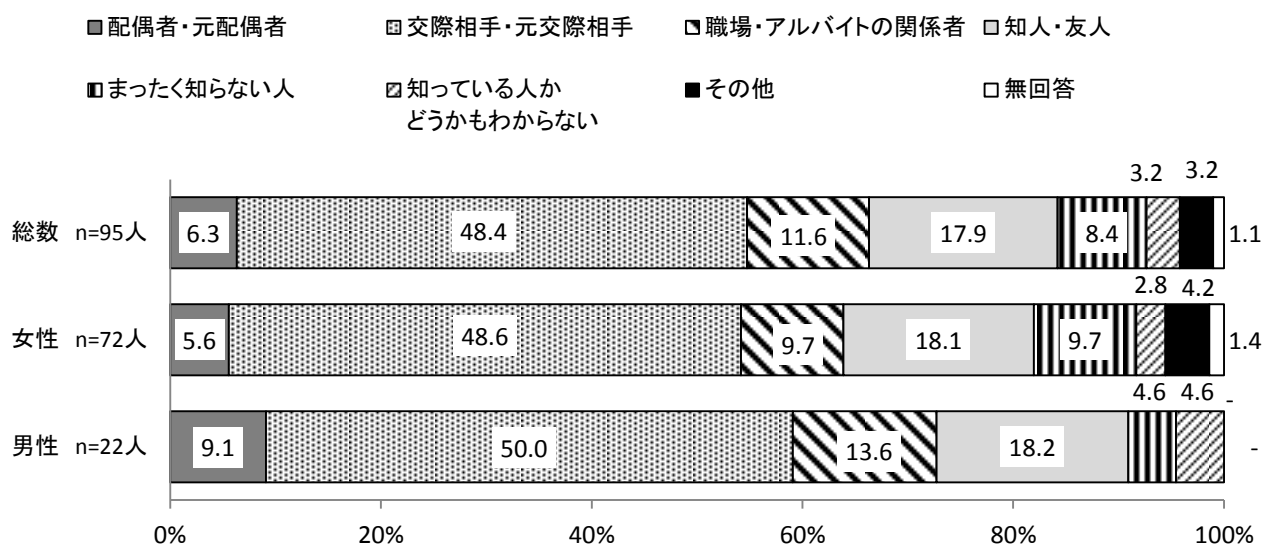
(2) 加害者との関係

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人(95人)に、加害者との関係を聞いたところ、全体で「交際相手・元交際相手」が48.4%と最も多く、次いで「知人・友人」が17.9%、「職場・アルバイトの関係者」が11.6%となっている。

男女別にみると、男性では「交際相手・元交際相手」が50.0%と半数を占める。(図5-2-1)

問23 加害者はあなたとどのような関係でしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
(○は1つ)

図5-2-1 加害者との関係



*総数には性別について無回答の人も含む。

*下記の選択肢は表記に省略あり

配偶者・元配偶者:配偶者(事実婚や別居中を含む)・元配偶者(事実婚を解消した者を含む)

職場・アルバイトの関係者:職場・アルバイトの関係者(上司、同僚、部下、取引先の相手など)

まったく知らない人:まったく知らない人(相手の姿は見えるが、面識がなく誰だかわからないなど)

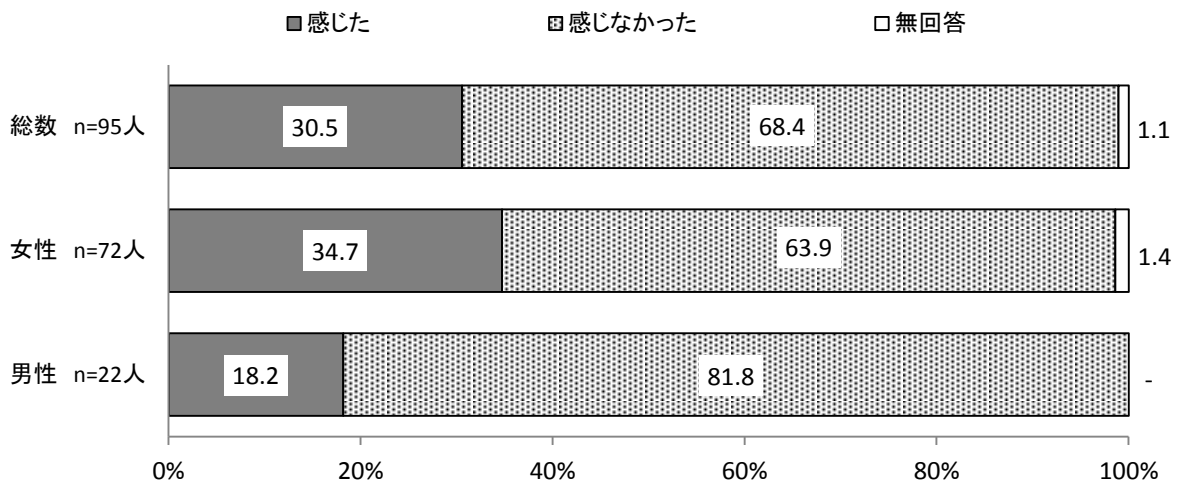
知っている人かどうかともわからない:知っている人かどうかともわからない(無言電話の相手やインターネット上の相手などで姿が見えず誰だかわからない)

(3) 命の危険を感じた経験

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人(95人)に、その被害によって命の危険を感じたことがあるかと聞いたところ、全体で「感じた」は30.5%であり、女性が34.7%、男性が18.2%となっている。(図5-3-1)

問 24 あなたは、その被害によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図5-3-1 命の危険を感じた経験



*総数には性別について無回答の人も含む。

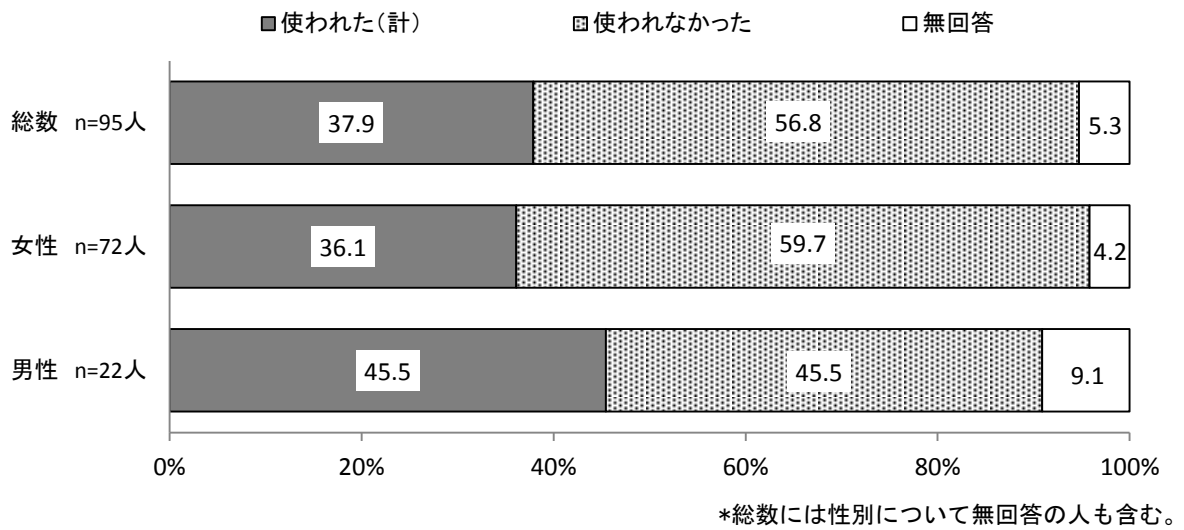
(4) 電子メールやインターネットなどによる被害経験

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人(95人)に、その被害について、電子メールやインターネットなどが使われていたか聞き、いずれかの通信手段により被害があったと回答した人の合計を『使われた』としてまとめた。

『使われた』は全体で37.9%であり、女性が36.1%、男性が45.5%となっている。(図5-4-1)

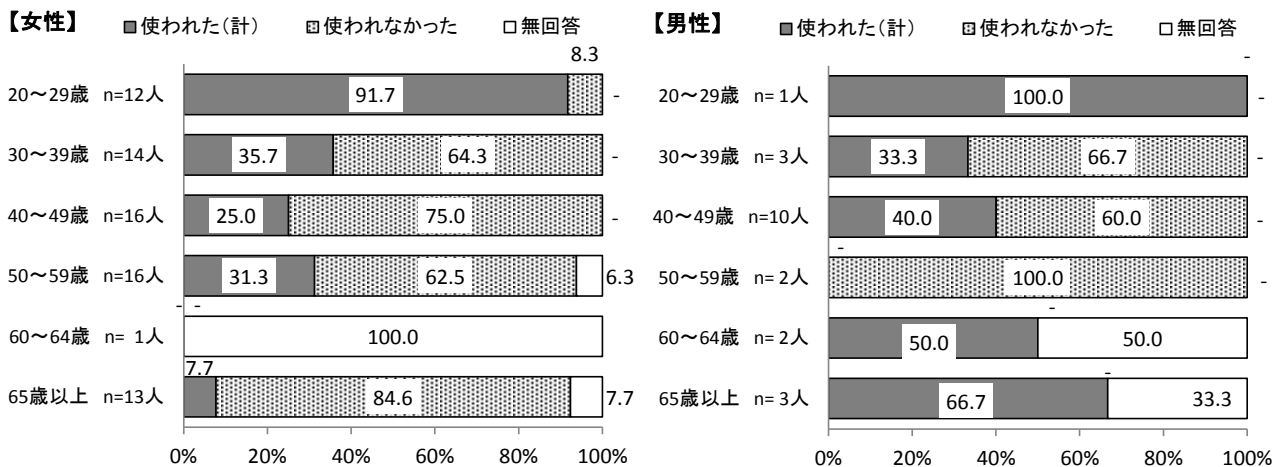
問 25 その被害では、電子メールやインターネットなどが使われていましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図5-4-1 電子メールやインターネットなどによる被害経験



性・年齢階級別にみると、『使われた』は、男女ともに20歳代で多くなっている。(図5-4-2)

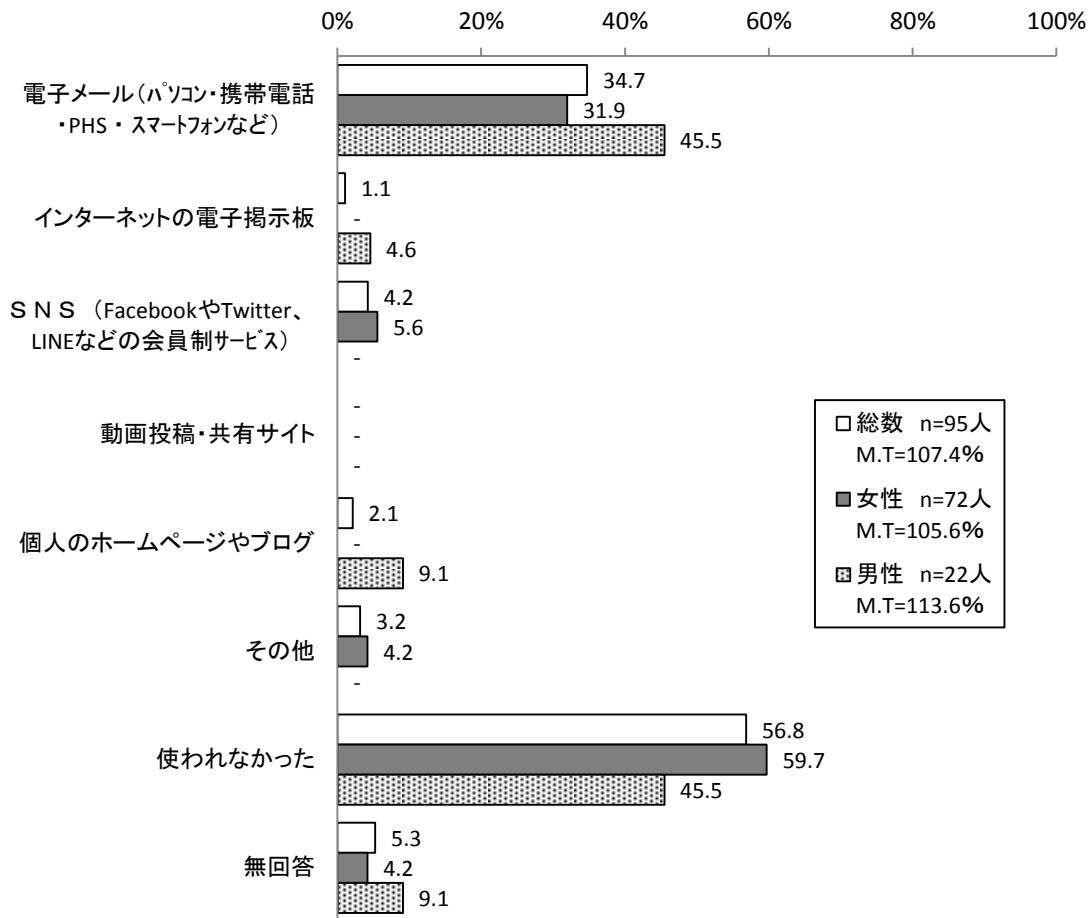
図5-4-2 電子メールやインターネットなどによる被害経験(性・年齢階級別)



*年齢について無回答の人がいるためnの合計は男性合計(22人)と一致しない。

使われた通信手段をみると、全体で「電子メール」が34.7%と最も多くあげられている。(図5-4-3)

図5-4-3 電子メールやインターネットなどによる被害経験(複数回答)



*総数には性別について無回答の人も含む。

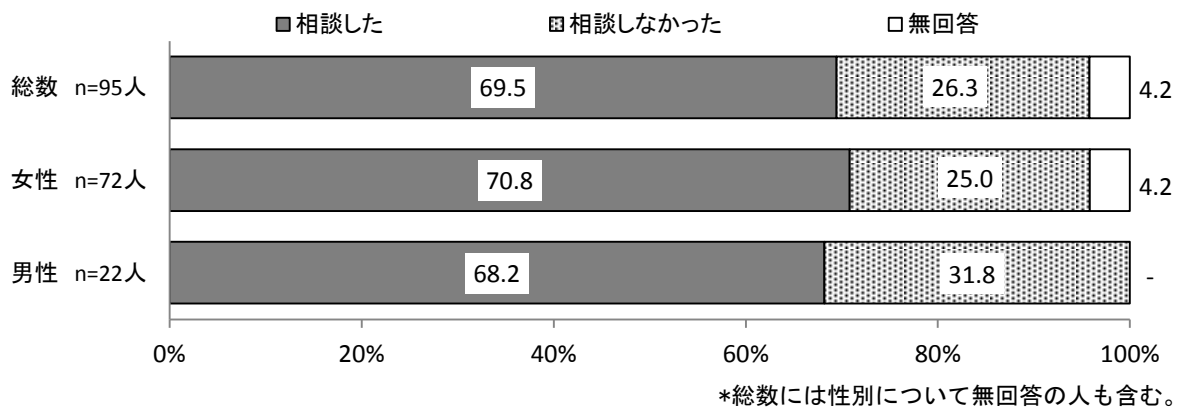
(5) 被害の相談先

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人(95人)に、その被害について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』とまとめた。

全体で『相談した』は69.5%であり、女性が70.8%、男性が68.2%となっている。(図5-5-1)

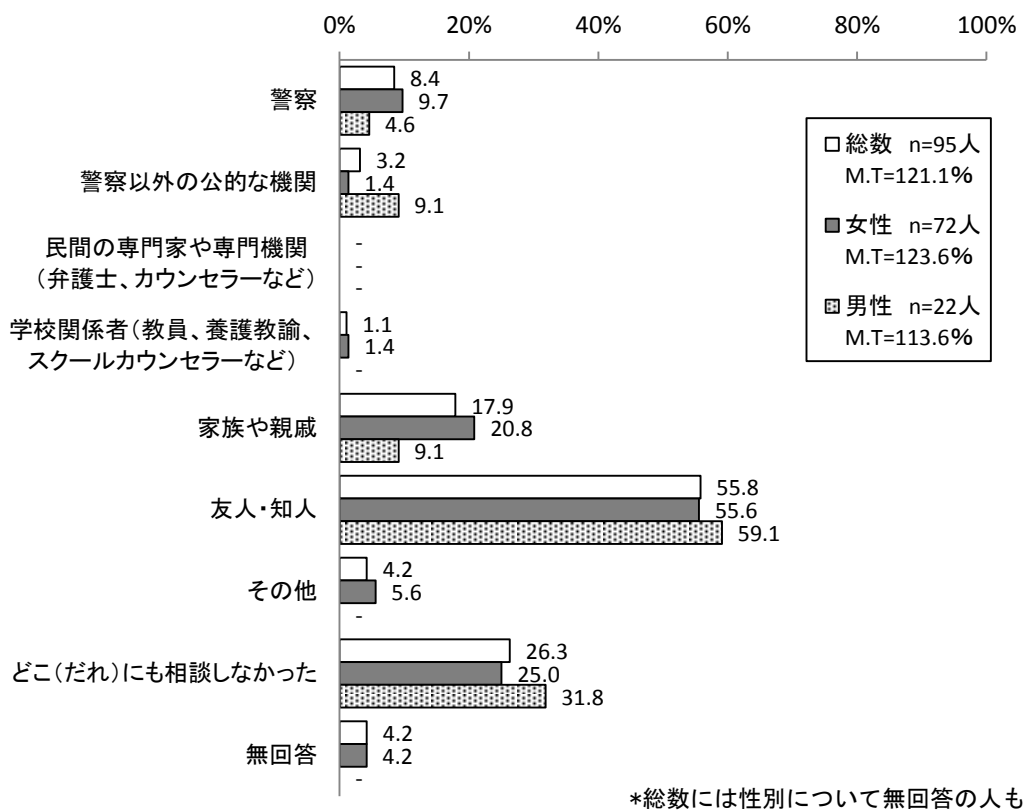
問 26 あなたはその被害について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図5-5-1 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害の相談の有無



相談先をみると、全体で「友人・知人に相談した」が55.8%と最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」が17.9%、「警察に連絡・相談した」が8.4%となっている。(図5-5-2)

図5-5-2 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害の相談先(複数回答)

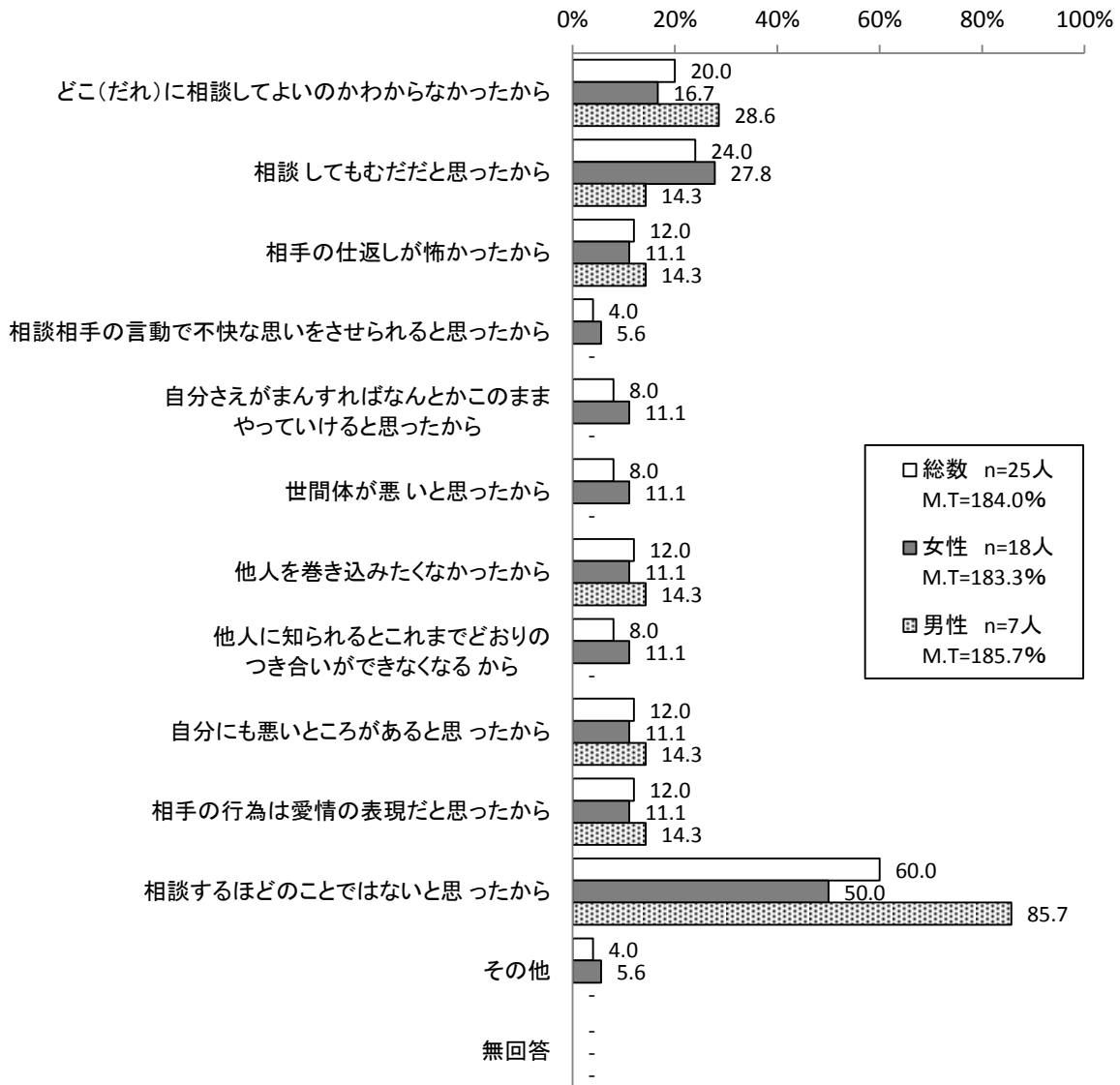


(6) 相談しなかった理由

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（25人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、全体で「相談するほどのことではないと思ったから」が60.0%と最も多く、次いで「相談してもむだだと思ったから」が24.0%、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」が20.0%、「相手の仕返しが怖かったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」がともに12.0%などとなっている。（図5-6-1）

問 27 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図5-6-1 相談しなかった理由(複数回答)



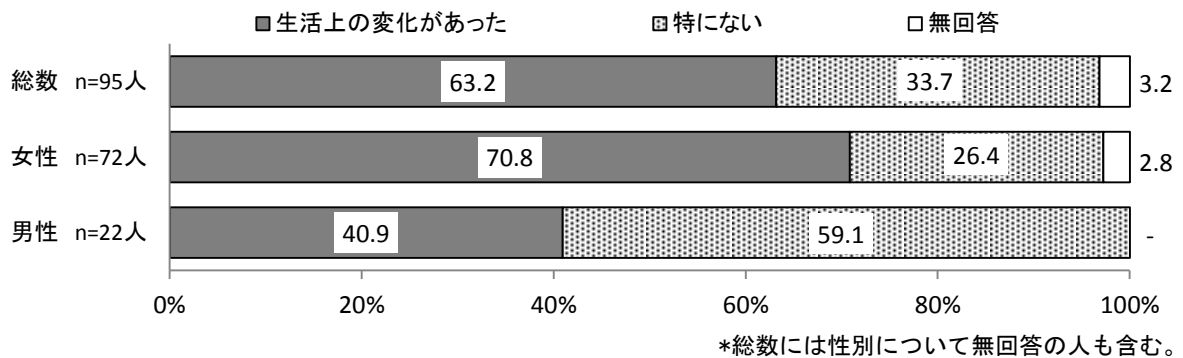
(7) 生活上の変化

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人(95人)に、その被害による生活上の変化を聞き、何らかの変化があったと回答した人を「生活上の変化あり」としてまとめた。

『生活上の変化があった』は全体で63.2%と6割を超えており、女性が70.8%、男性が40.9%となっている。(図5-7-1)

問 28 あなたは、加害者から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

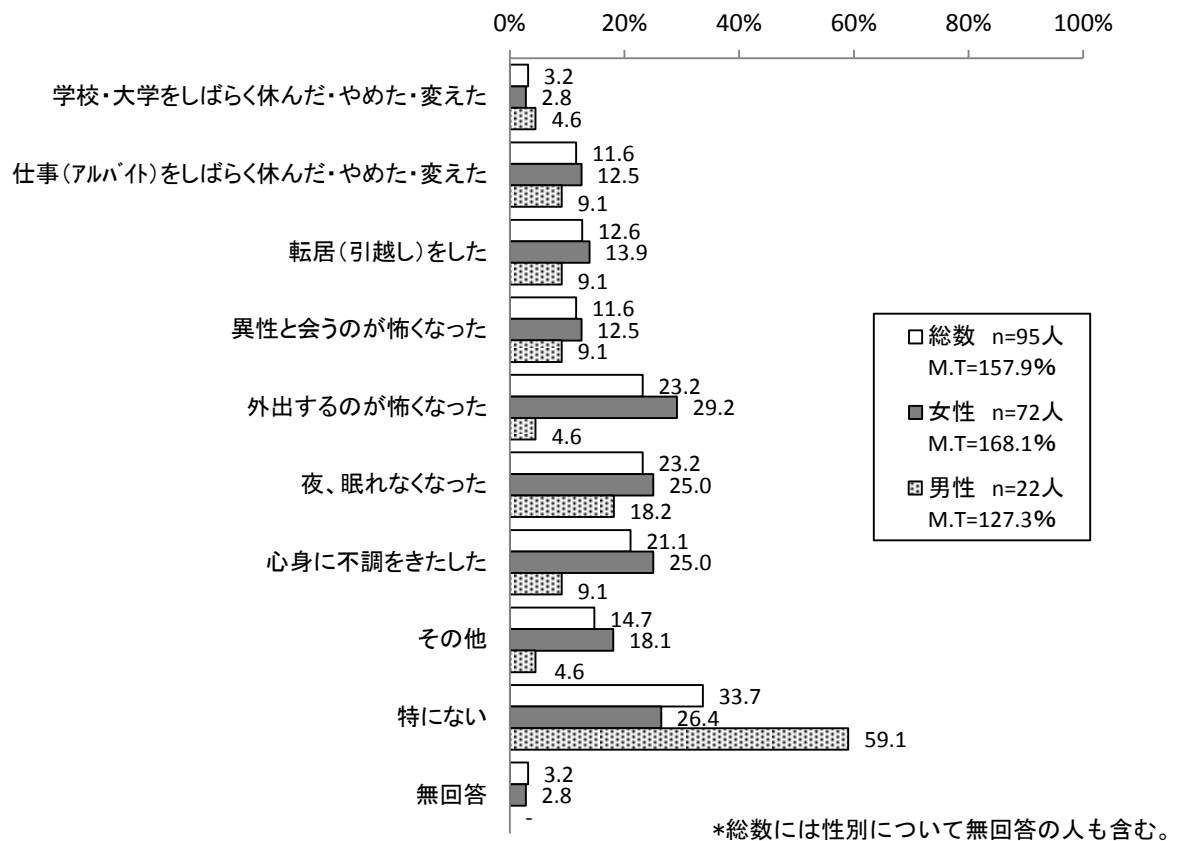
図5-7-1 生活上の変化



生活上の変化の内容をみると、全体で「外出するのが怖くなった」と「夜、眠れなくなった」がともに23.2%、「心身に不調をきたした」が21.1%などとなっている。

男女別にみると、女性は「外出するのが怖くなった」が29.2%と最も多く、男性は「夜、眠れなくなった」が18.2%で最も多くなっている。(図5-7-2)

図5-7-2 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害による生活上の変化(複数回答)



6 異性から無理やりに性交された経験

(1) 被害経験の有無

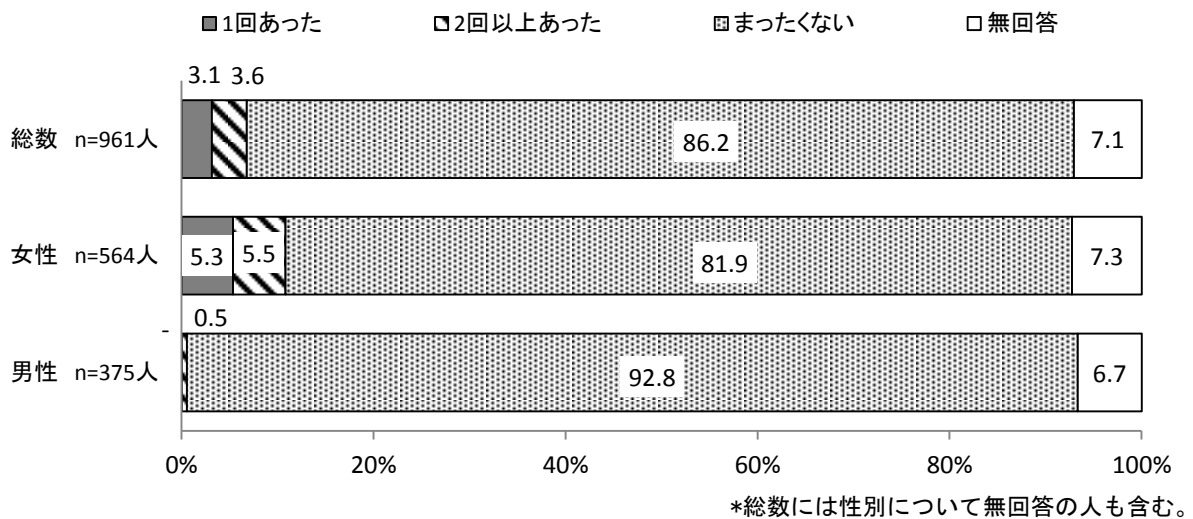
これまでに異性から無理やりに性交されたことがあるかを聞いたところ、全体で「1回あった」が3.1%、「2回以上あった」が3.6%で、被害経験のある人は6.7%となっている。

女性は被害経験のある人が10.8%、男性は被害経験のある人が0.5%となっている。(図6-1-1)

子どもの頃も含めて、これまでの経験についてお聞きします。

問 29 あなたはこれまでに、異性から、無理やりに性交されたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図6-1-1 異性から無理やりに性交された経験の有無



(2) 加害者との関係

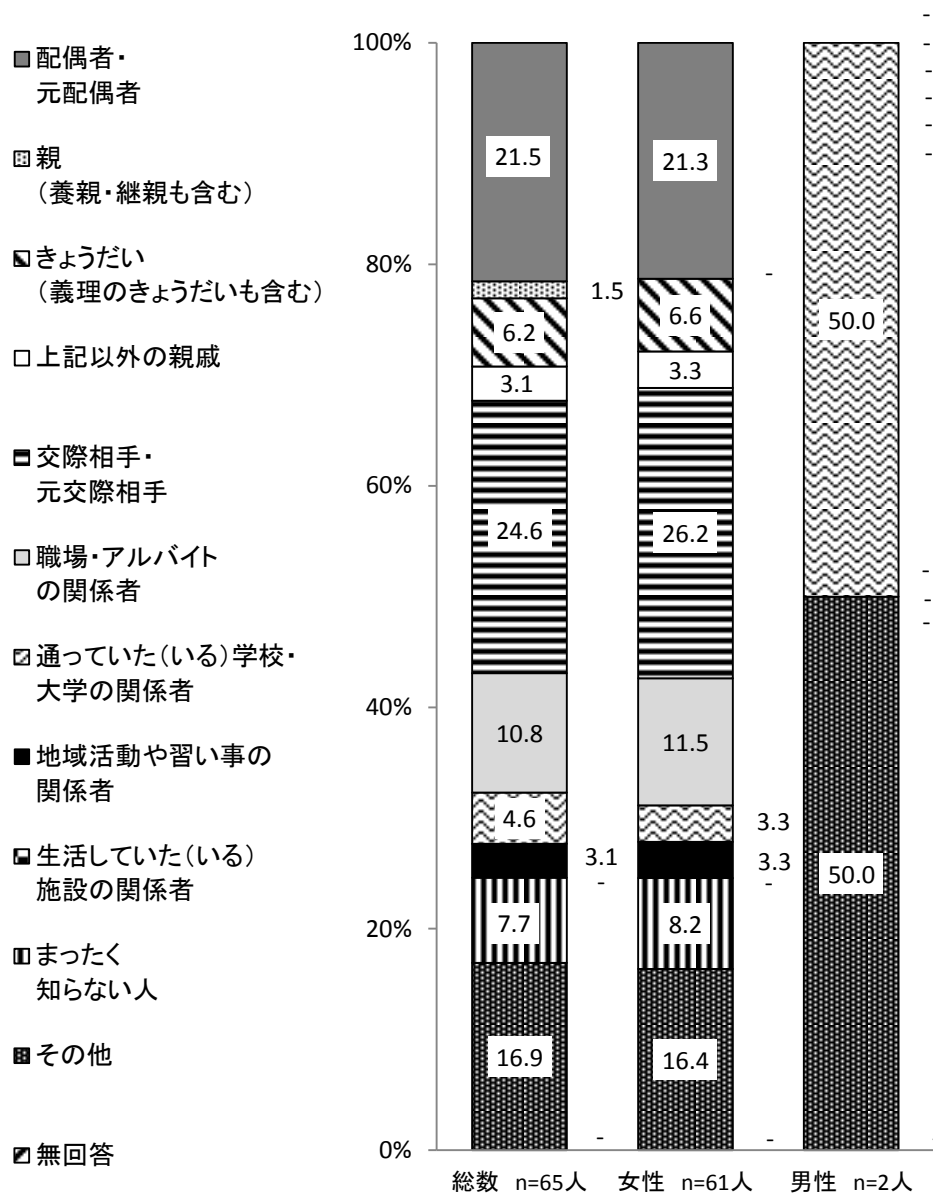
異性から無理やりに性交されたことがあった人（65人）に、加害者との関係を聞いたところ、全体で「交際相手・元交際相手」が24.6%と最も多く、次いで「配偶者・元配偶者」が21.5%、「その他」が16.9%、「職場・アルバイトの関係者」が10.8%などとなっている。（図6-2-1）

問29で「1」、「2」（被害にあった）と答えた方にお聞きします。

その出来事（問29の出来事）についてお聞きします。2回以上あった方については、あなたにより深く傷ついた経験の1つについてお答えください。

問30 加害者とあなたとどのような関係でしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図6-2-1 加害者との関係



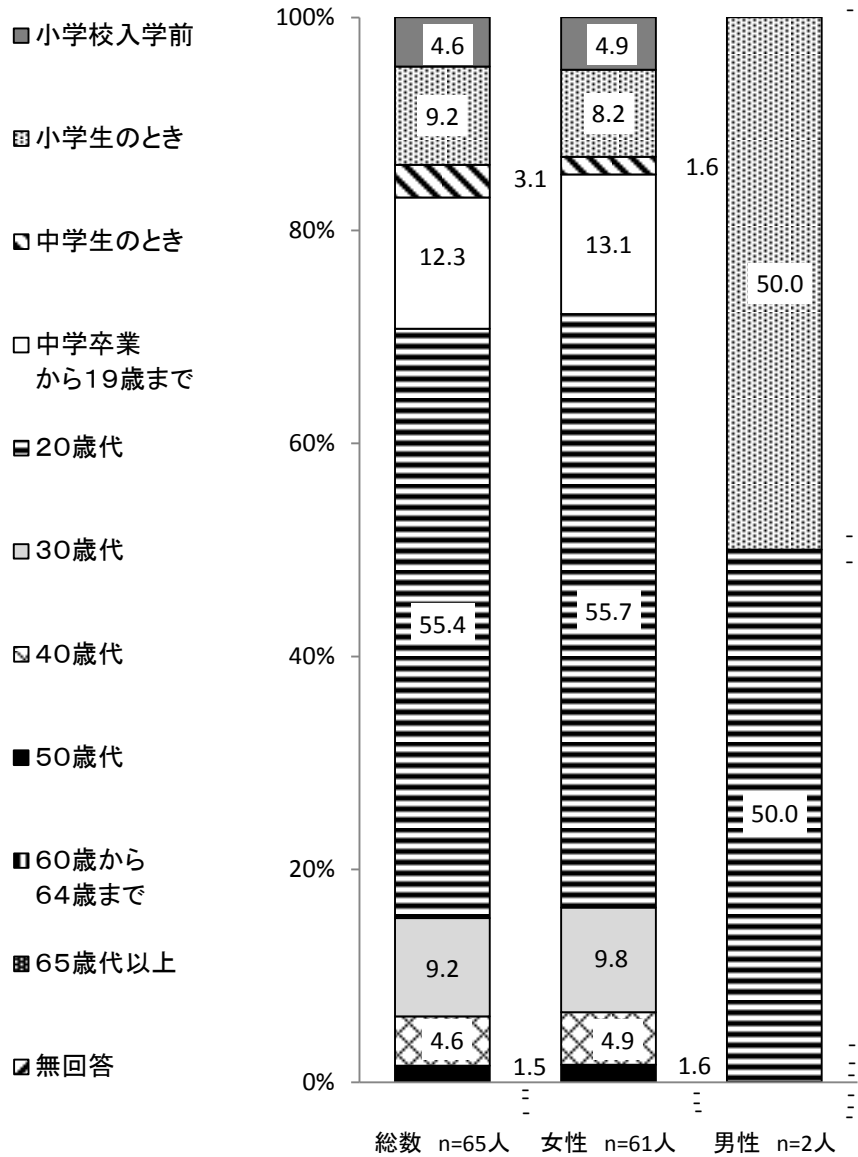
*総数には性別について無回答の人も含む。

(3) 被害にあった時期

異性から無理やりに性交されたことがあった人(65人)に、その被害にあった時期を聞いたところ、全体で「20歳代」が55.4%と最も多く、次いで「中学卒業から19歳まで」が12.3%、「小学生のとき」と「30歳代」がともに9.2%などとなっている。(図6-3-1)

問31 その被害にあったのはいつですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図6-3-1 異性から無理やりに性交された被害にあった時期



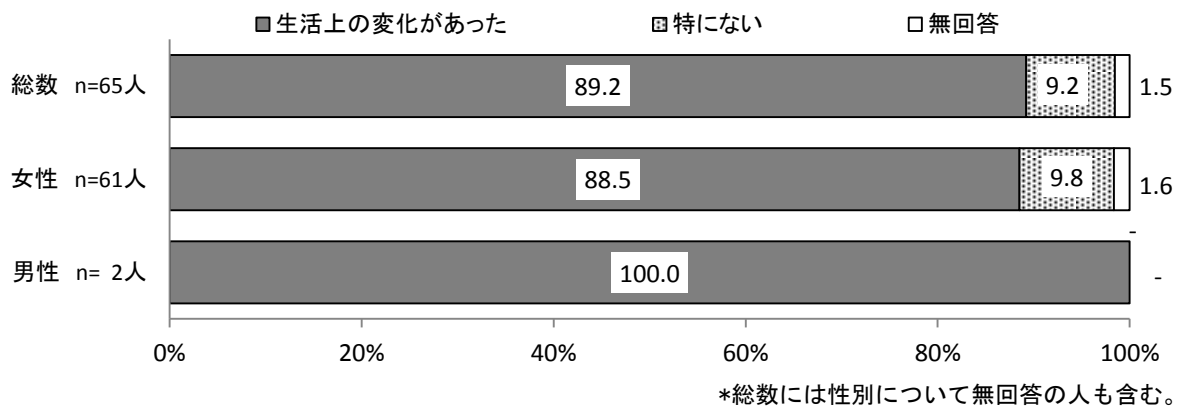
*総数には性別について無回答の人も含む。

(4) 生活上の変化

異性から無理やりに性交されたことがあった人(65人)に、その被害による生活上の変化を聞き、何らかの変化があったと回答した人を「生活上の変化あり」としてまとめた。全体で『生活上の変化があった』は、89.2%となっている。(図6-4-1)

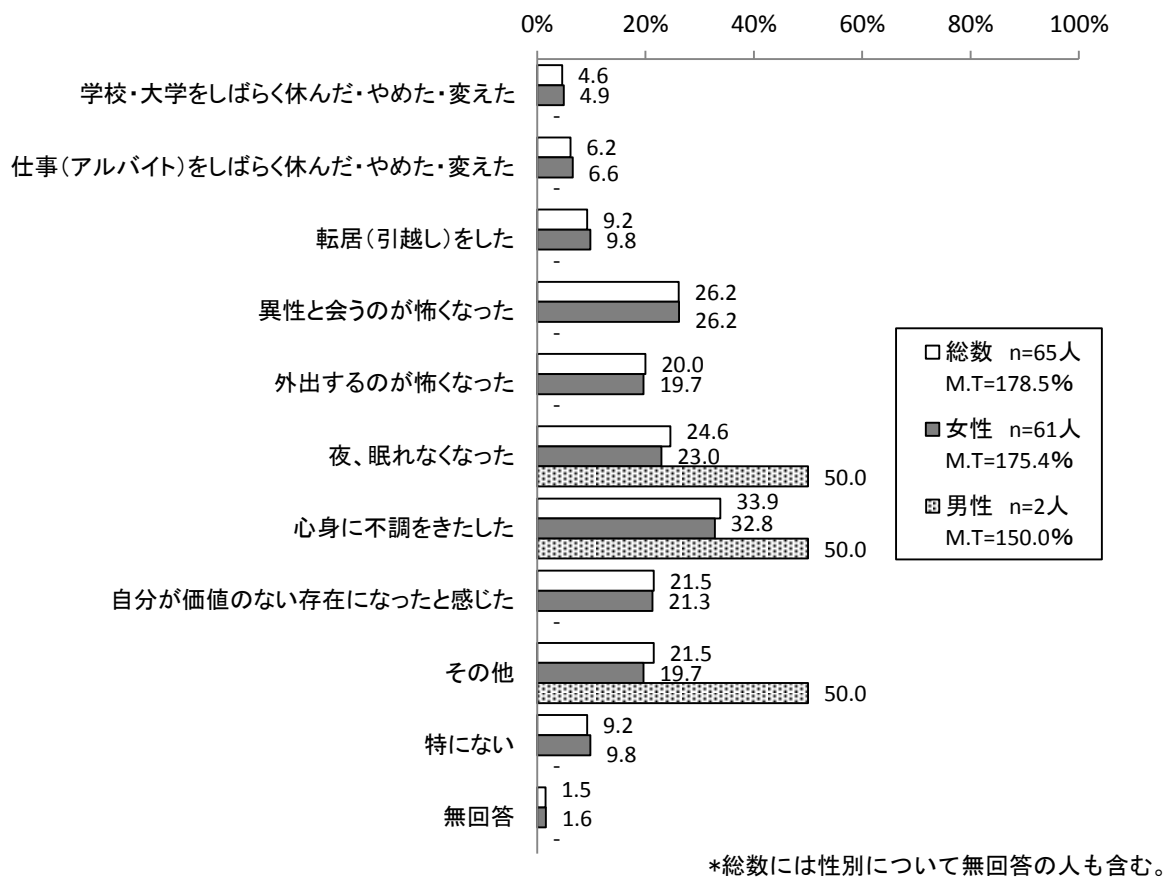
問 32 あなたは、その被害によって、生活上の変化がありましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図 6-4-1 異性から無理やりに性交された被害による生活上の変化の有無



生活上の変化の内容をみると、全体で「心身に不調をきたした」が33.9%、次いで「異性と会うのが怖くなった」が26.2%、「夜、眠れなくなった」が24.6%などとなっている。(図6-4-2)

図 6-4-2 異性から無理やりに性交された被害による生活上の変化(複数回答)

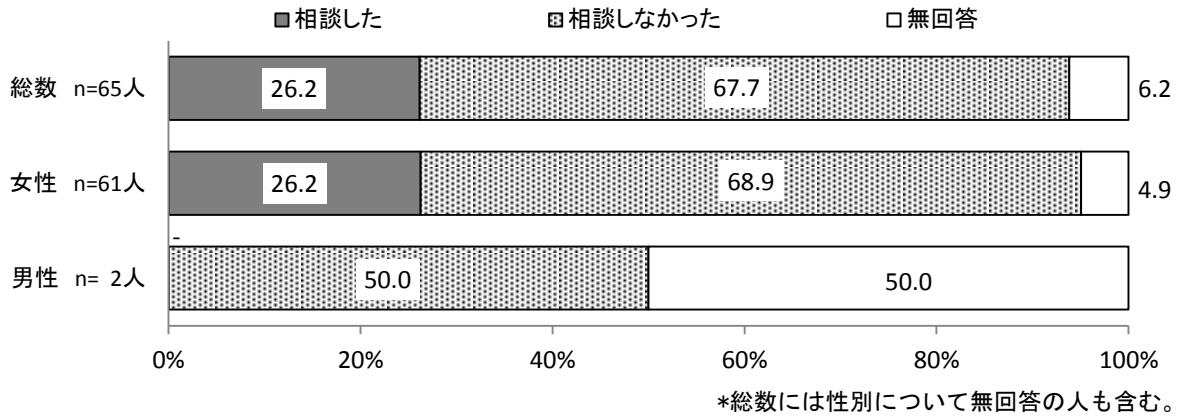


(5) 被害の相談先

異性から無理やりに性交されたことがあった人（65人）に、その被害について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』とまとめた。全体で『相談した』が26.2%で、「相談しなかった」が67.7%となっている。（図6-5-1）

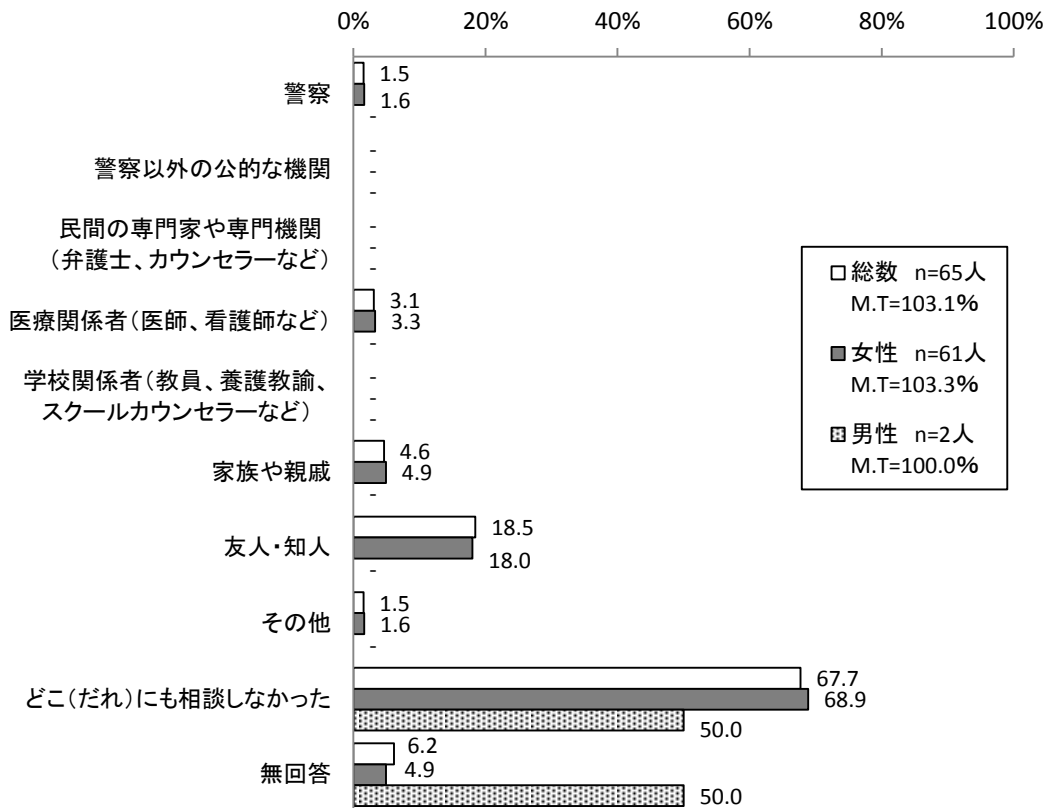
問 33 あなたはその被害について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図6-5-1 異性から無理やりに性交された被害の相談の有無



相談先をみると、全体で「友人・知人に相談した」が18.5%と最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」が4.6%などとなっている。（図6-5-2）

図6-5-2 異性から無理やりに性交された被害の相談先（複数回答）

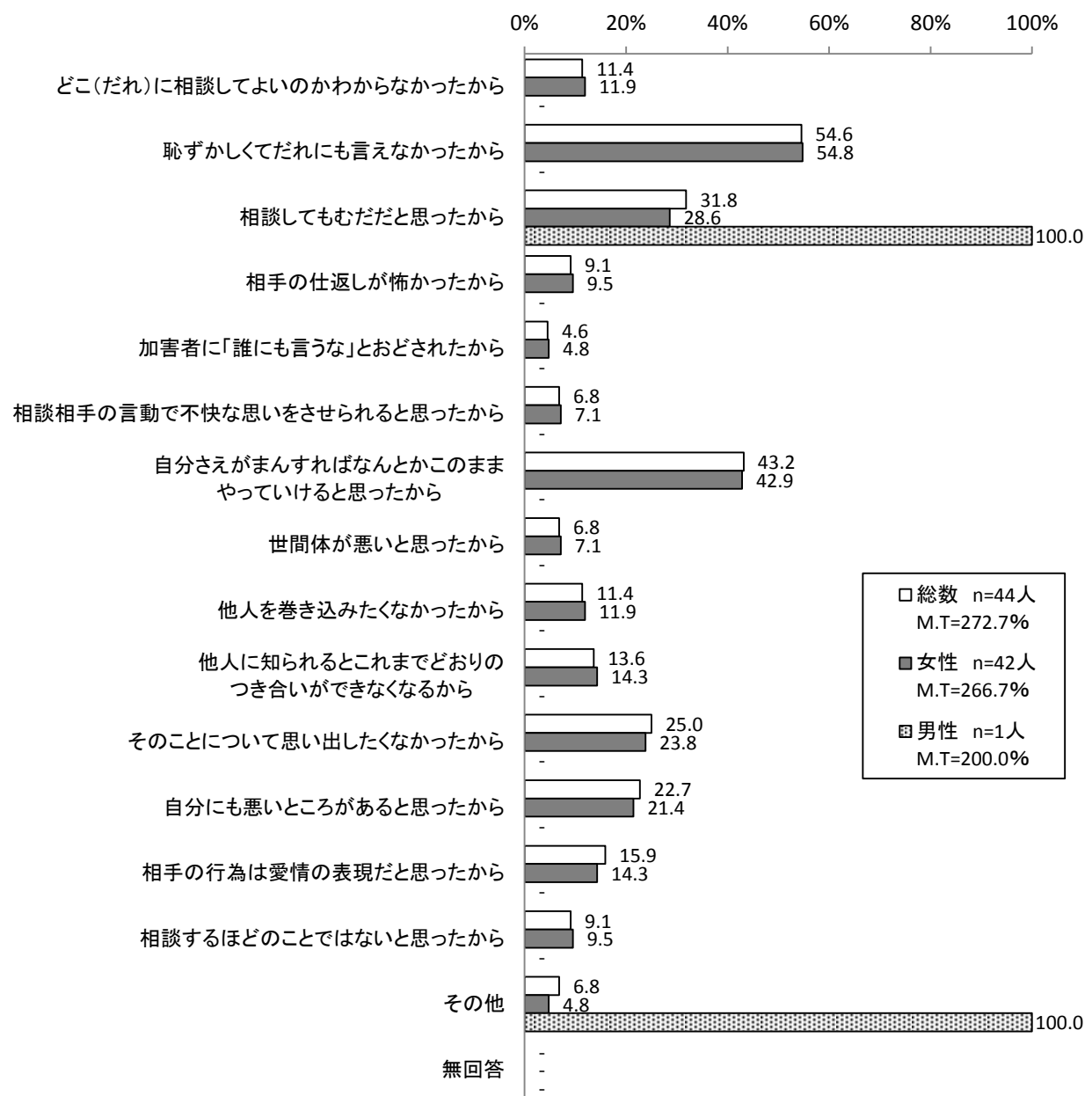


(6) 相談しなかった理由

異性から無理やりに性交された被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（44人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、全体で「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が54.6%と最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていたら」が43.2%、「相談してもむだだと思ったから」が31.8%などとなっている。（図6-6-1）

問 34 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図6-6-1 相談しなかった理由(複数回答)



*総数には性別について無回答の人も含む。

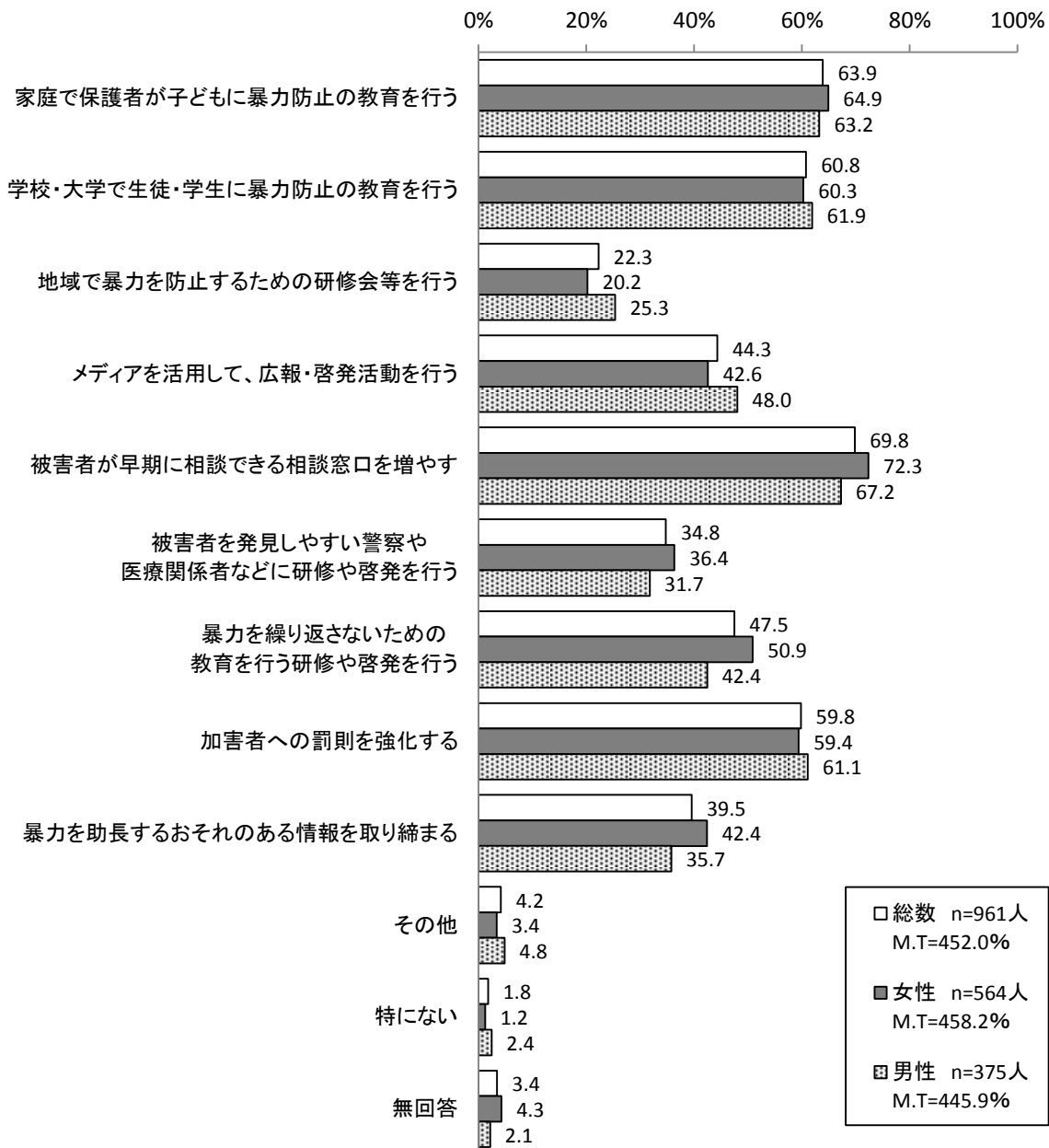
7 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制

(1) 男女間の暴力を防止するために必要なこと

男女間における暴力を防止するために必要だと考えることを聞いたところ、全体で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が 69.8%と最も多く、「家庭で保護者が子どもに暴力防止の教育を行う」が 63.9%、「学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が 60.8%などとなっている。(図 7-1-1)

問 35 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図 7-1-1 男女間における暴力を防止するために必要なこと(複数回答)



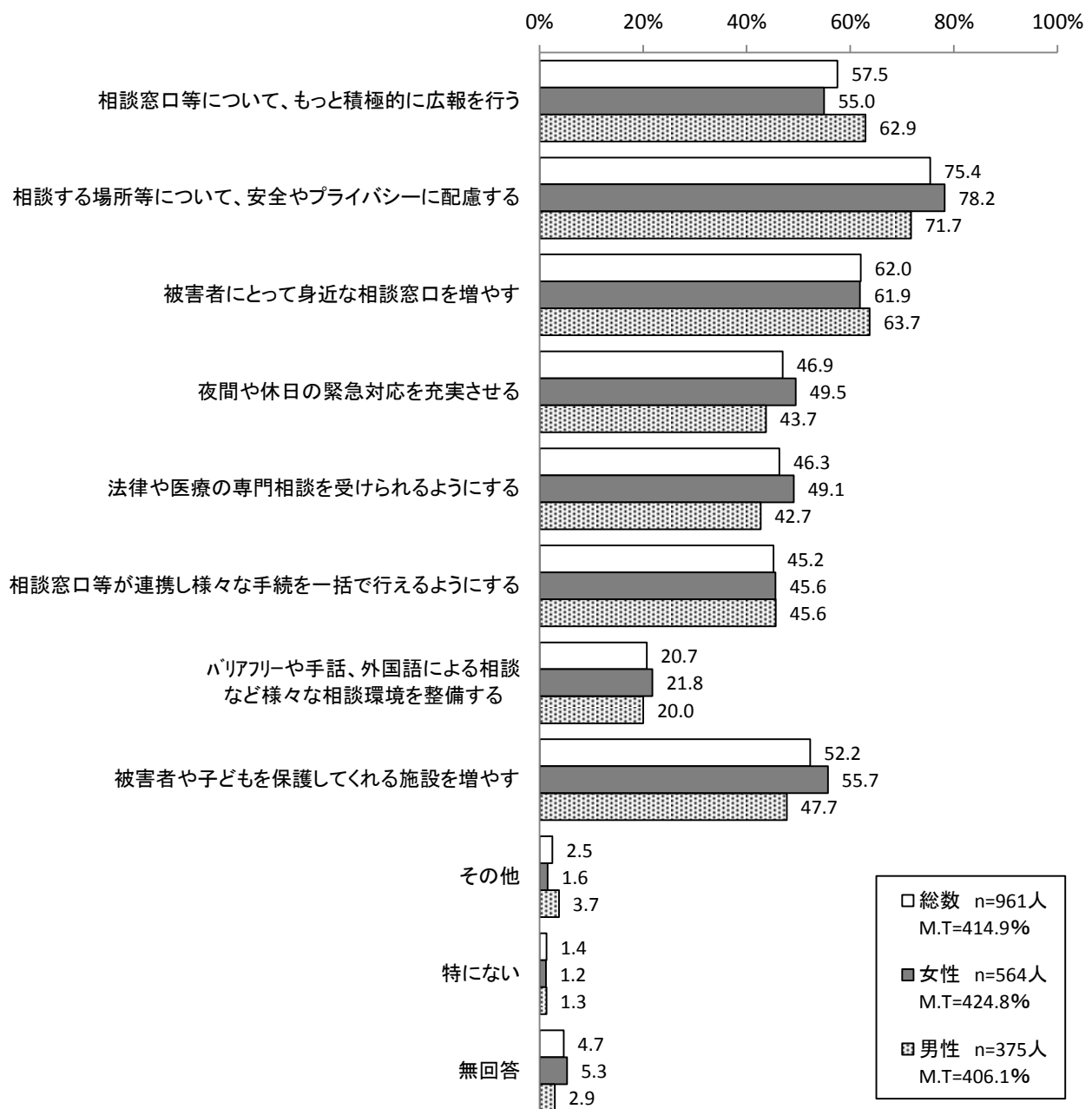
*総数には性別について無回答の人も含む。

(2) 被害者が相談しやすくするために必要なこと

被害者が相談しやすくするために必要だと考えることを聞いたところ、全体で「被害者が相談する場所等について、安全やプライバシーが確保されるように配慮する」が75.4%と最も多く、「被害者にとって身近な相談窓口を増やす」が62.0%、「相談窓口や支援の内容について、もっと積極的に広報を行う」が57.5%、「被害者や子どもを保護してくれる施設を増やす」が52.2%などとなっている。(図7-2-1)

問 36 被害者が相談しやすくするためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図7-2-1 被害者が相談しやすくするために必要なこと(複数回答)



*総数には性別について無回答の人も含む。

